第78号住居跡（第274・275図）

調査区の中央、やや西寄りT－9グリッドに位置している。ＳＳ59の周溝を一部掘り込んで構築され、ＳD95B・103・115、ＳK633と重複するが、住居跡が比較的深いため、カマドを除いて遺存状態は良好であった。平面形態は東西方向に長辺をもつ長方形で、規模は長辺4.57m、短辺2.86m、深さ0.40mである。主軸方向はN－41°－Eである。

カマドは、ＳＳ59の周溝にかかる北辺東寄りに１基検出された。カマド内はピットや溝跡などの他の遺構と重複するため、袖は殆ど残っていない。カマドは壁を大きく掘り込んで構築され、掘形は煙道の方向ばかりではなく、左右に及んでいる。燃焼面は床面から約15cm掘り込まれ、底面は緩やかなレンズ状になっており、中央左寄りに土製の支脚が出土した。支脚は燃焼面がやや埋まった位置に置かれていた。また、側壁付近には、灰色の粘土質ブロックが多くみられた。

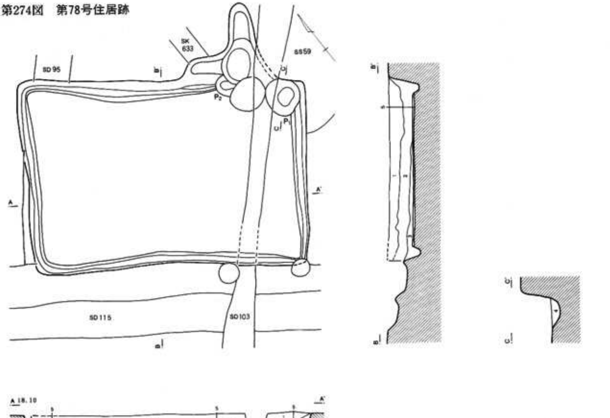
ピットは３基検出された。Ｐ１は、直径約60cmの円形で、貯蔵穴とみられる。Ｐ２はＰ１と同様ＳD103と重複するが、Ｐ２はカマドの焚口や燃焼面の一部を切り込んでいるため、住居跡には伴わない可能性が高い。

床面は平坦で、ほぼ全域にわたって貼り床が認められた。壁溝はカマドを除いて全周する。

出土遺物（第276図）

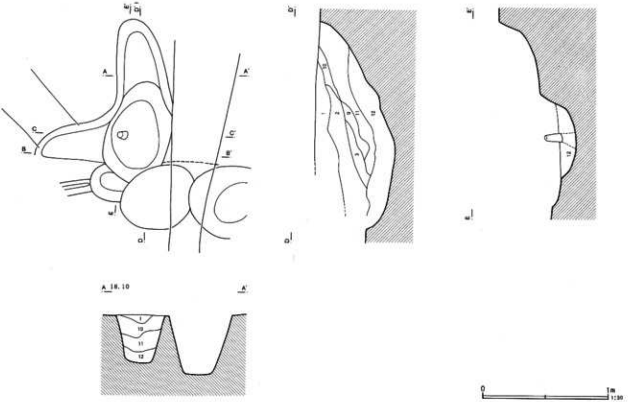
出土遺物には、須恵器坏、埦、長頸(瓶か)、蓋、甕、土師器甕、支脚がある。土師器甕はカマド付近の床面、須恵器坏類はやや浮いた状態で出土している。１～６は須恵器坏で、直径約12cm、底径約６cmである。体部

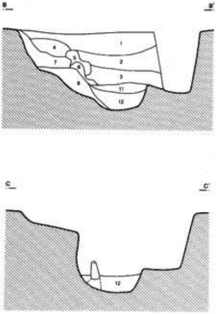
第274図　第78号住居跡



SJ78
1　暗褐色土　　ローム粒子、ロームブロック少量含む。
2　暗褐色土　　ローム粒子多量、焼土粒子、炭化粒子少量含む。
3　暗褐色土　　焼土粒子、炭化粒子、ローム粒子、ロームブロック少量含む。
4　暗褐色土　　ローム粒子多量含む。
5　暗黄褐色土　ロームブロック多量含む。掘形。

第275図　第78号住居跡カマド

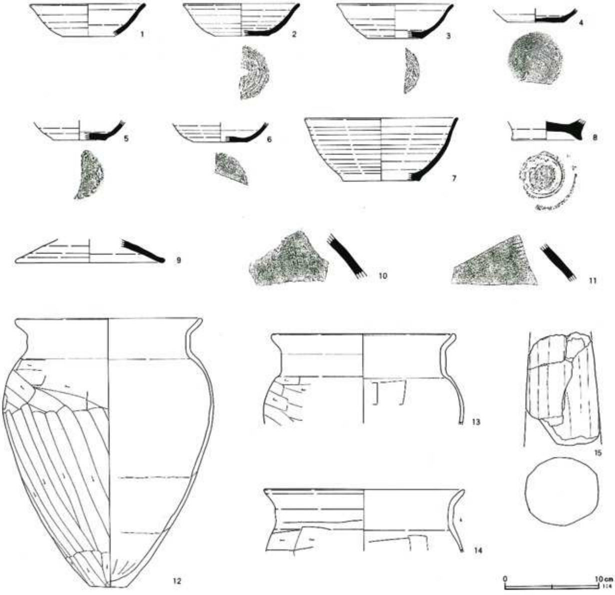




ＳＪ７８カマド

1	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒子多量、焼土粒子、炭化粒子少量含む。
3	暗褐色土	焼土粒子、炭化粒子、ローム粒子、ロームブロック少量含む。
4	暗褐色土	焼土粒子、焼土ブロック、炭化物、ローム粒子、ロームブロック少量含む。
5	灰褐色土	焼土粒子少量、灰色ブロック多量含む。
6	灰褐色土	焼土粒子、灰色ブロック、暗褐色ブロック少量含む。
7	暗黄褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。
8	暗褐色土	焼土粒子、ローム粒子少量含む。
9	暗褐色土	炭化粒子、焼土粒子少量含む。
10	灰褐色土	焼土粒子、ローム粒子少量、灰色ブロック、炭化粒子多量含む。粘性あり。
11	暗灰褐色土	ローム粒子少量、炭化粒子、焼土粒子、灰色ブロック多量含む。粘性あり。
12	暗赤褐色土	炭化粒子、焼土粒子多量、灰色粒子少量含む。

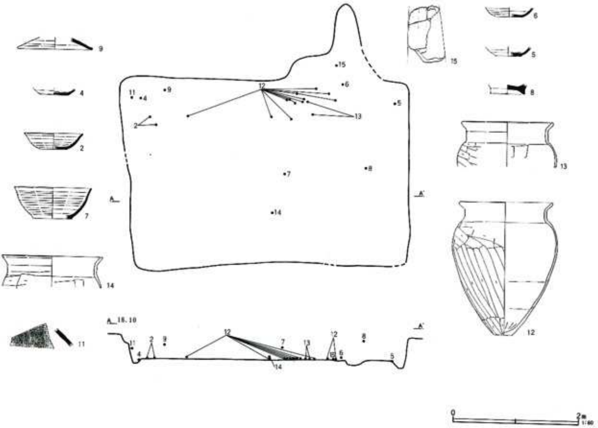
第276図　第78号住居跡出土遺物



第78号住居跡出土遺物観察表（第276図）

番号	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　　考
1	坏	(12.4)			CKL	C	灰オリーブ色	20	
2	坏	12.4	3.4	5.8	CKL	C	灰色	50	一部炭化物が付着
3	坏	(12.4)	3.6	(5.8)	CKL	A	灰色	20	口縁部に自然釉
4	坏			6.0	ABCKL	A	灰色	20	
5	坏			(5.6)	ABCKL	A	灰オリーブ色	10	
6	坏			(5.8)	ABCKL	A	灰色	20	
7	埦	(16.4)	6.6	(8.2)	BDKL	A	灰黄色	30	
8	長頸瓶			7.6	BKL	A	灰色	10	
9	蓋	(16.0)			CKL	C	灰白色	20	
10	甕				CKL	A	黒褐色	10	内面に自然釉
11	甕				CKL	A	青灰色	10	
12	甕	(20.0)	28.4	4.0	BKL	A	暗赤褐色	70	
13	甕	(19.6)			HKL	A	暗赤褐色	20	
14	甕	(21.6)			BKL	A	暗橙褐色	25	
15	支脚	長さ(11.9)×幅7.8×厚さ7.3cm							

第277図　第78号住居跡遺物分布図



は緩やかに膨らみ、口縁部で僅かに外反する。底部は回転糸切りで、いずれも南比企産である。7は須恵器埦で、体部から口縁部にかけてロクロの痕跡を強く残す。8は須恵器長頸瓶または長頸壺の底部破片である。9は須恵器蓋の破片、10・11は須恵器甕の胴部破片である。10は格子叩き、11は平行叩きで、ともに部分的に磨り消しがある。

12～14は「コ」の字口縁の土師器甕である。13は胴部上半部の膨らみがやや強い。15は土製支脚の破片で、基部を欠く。全体が脆いが、縦方向のヘラケズリは明瞭に残っている。

住居跡は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

第79号住居跡（第278図）

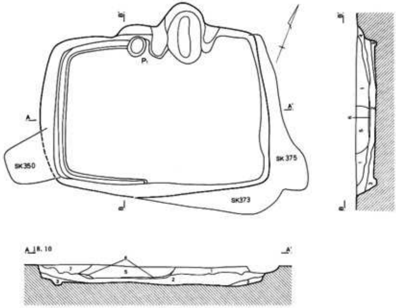
調査区の中央、やや西寄りのT－9グリッド、SJ78の北約5mに位置している。SK350・373・375と重複し、南東隅がSS59に掛かっている。平面形態は長方形で、西辺がやや膨らんでいる。規模は長辺3.62m、短辺2.36m、深さ0.27mである。主軸方向はN－24°－Eである。

カマドは北辺中央に1基検出され、壁面を僅かに掘り込んで構築されていた。袖は左右とも僅かに残存していたが、上面は既に崩れて粘土質土は少なかった。左袖の左側には長さ約50cm、幅約25cmのテラス状の平坦面があり、棚的な施設の可能性が考えられる。

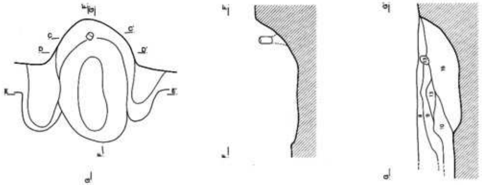
覆土は上層から下層まで焼土粒子が混じる暗褐色土で、燃焼面の焚口寄りに炭化物や焼土ブロックが集中していた。燃焼部の掘り込みは床面から約10cmで、底面は平坦であるが、狭い。煙道は短く、急角度で立ち上がるが、傾斜途中で土製の支脚が埋設した状況で出土したことから、実際にはさらに北側まで延びていた可能性も考えられる。

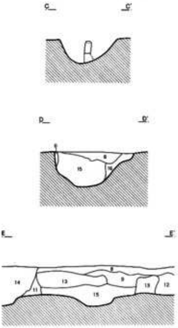
覆土はローム粒子を含む暗褐色土で、焼土はカマド付近に集中する。床面は平坦であるが、全体に壁面に

第278図　第79号住居跡・カマド



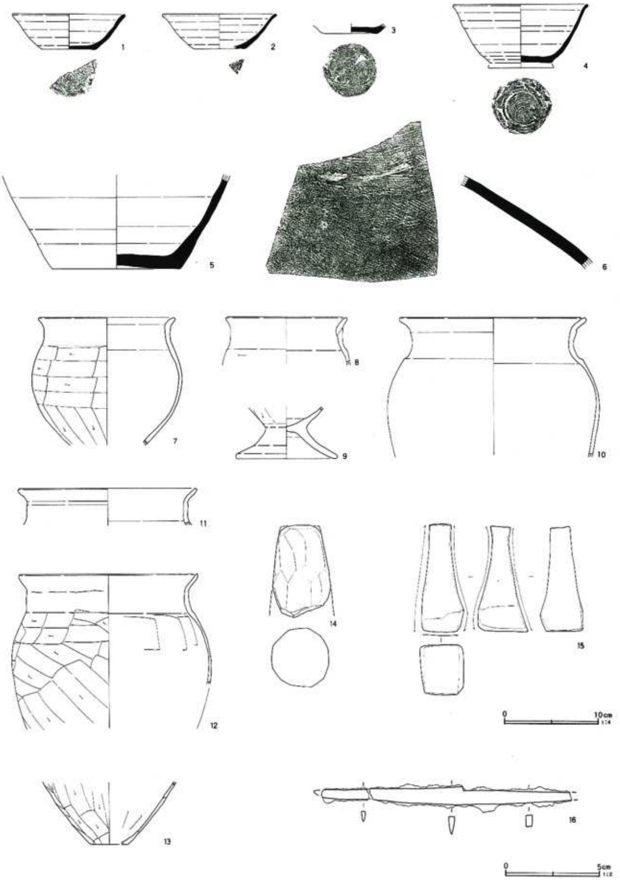
ＳＪ７９
1　暗褐色土　　ローム粒子少量含む。
2　暗褐色土　　ローム粒子、ロームブロック多量、焼土粒子、焼土ブロック炭化粒子少量含む。
3　暗黄褐色土　ローム粒子、ロームブロック多量含む。
4　黒褐色土　　ローム粒子、ロームブロック少量、炭化物多量含む。
5　黒褐色土　　灰褐色粒子少量、ローム粒子多量含む。
6　黄褐色土　　ローム粒子多量、暗褐色ブロック少量含む。粘性あり。
7　暗褐色土　　ローム粒子多量含む。





カマド
8　暗褐色土　　焼土粒子、ローム粒子少量含む。
9　暗褐色土　　焼土粒子、焼土ブロック、ローム粒子、灰色ブロック少量含む。
10　暗赤褐色土　焼土ブロック多量、ローム粒子、灰色ブロック、黒褐ブロック少量含む。
11　黒褐色土　　ローム粒子、灰色ブロック少量、炭化粒子多量含む。粘性あり。
12　暗褐色土　　焼土粒子、焼土ブロック、ローム粒子少量含む。粘性あり。
13　赤褐色土　　焼土粒子、焼土ブロック多量、ローム粒子少量含む。
14　赤褐色土　　焼土ブロック多量含む。
15　暗褐色土　　焼土粒子、灰色粒子、灰色ブロック、炭化物少量含む。
16　暗黄褐色土　焼土粒子少量、ローム粒子多量含む。粘性あり。

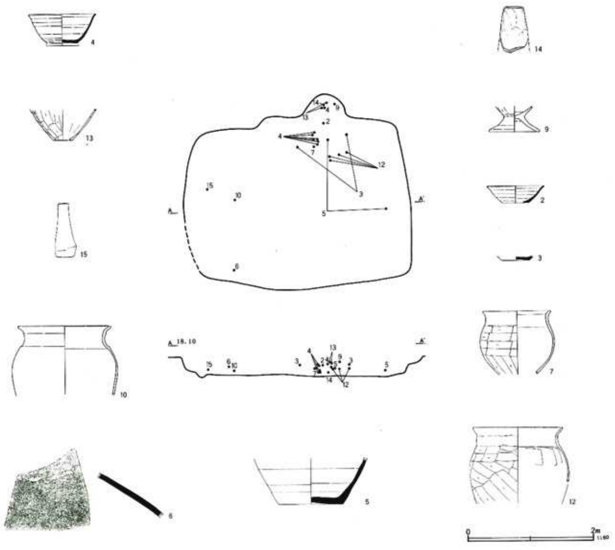
第279図　第79号住居跡出土遺物



第79号住居跡出土遺物観察表（第279図）

番号	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　　考
1	坏	12.0	3.7	5.7	CKL	A	橙褐色	30	
2	坏	12.2	3.7	(5.6)	CFKL	A	灰白色	10	
3	坏			5.8	CKL	A	橙褐色	10	
4	高台付埦	(14.4)	(6.2)		BDKL	A	灰色	10	高台痕跡あり
5	甕			(13.8)	CDKL	A	明赤褐色	10	
6	甕				KL	A	淡灰褐色	10	自然釉付着
7	台付甕	(14.4)			BKL	A	暗赤褐色	95	
8	甕	(13.0)			BEKL	A	赤褐色	15	
9	台付甕			10.8	BKL	A	赤褐色	80	
10	甕	(20.0)			BKL	B	暗茶褐色	40	内面風化
11	甕	(19.0)			AEKL	A	暗赤褐色	10	
12	甕	19.0			EKL	A	淡赤褐色	60	
13	甕			(4.0)	BEKL	A	淡暗赤褐色	40	
14	支脚	長さ(9.7)×幅6.0×厚さ6.1cm							
15	砥石	長径11.4×短径4.6×厚さ5.2cm、重量239.7ｇ							
16	刀子	長さ(13.2)×身幅7.45×棟幅0.3cm、重量13.37ｇ							

第280図　第79号住居跡遺物分布図



向かってやや上がっている。壁溝は西側半分で検出された。また、ピットはカマド左袖に１基検出されたが、貯蔵穴や柱穴などは確認されなかった。

出土遺物（第279図）

出土遺物には須恵器坏、高台付埦、長頸瓶、甕、土師器台付甕、甕、支脚、砥石がある。遺物はカマドを中心に10数点出土している。１～３は須恵器坏で、口縁部の先端が僅かに外反するものである。底部は回転糸切りである。いずれも南比企産である。４は須恵器高台付埦で、高台部を欠く。身が深く、体部下半のロクロ痕跡が強く、丸みをもつ。産地は不明。５は長頸瓶の胴部下半から底部の破片で、焼成温度が低く、灰白色である。胴部の粘土の繋ぎ目は明瞭で、内外面とも横方向のなでで調整され、底部はヘラケズリされる。６は須恵器甕の肩部の破片である。頸部に近い部分は平行叩き、下がるに従って斜方向の平行叩きとなる。５・６は南比企産である。

７～９は土師器台付甕、11～13は土師器甕、14は土製支脚の破片である。いずれもカマド内またはカマド付近から出土したものである。12はカマド袖の補強材に使用されていた。14の支脚は縦方向に削った後、再度中位あたりから大きく削り込んで調整されている。15は砂岩質系の砥石で、柄の一部を欠く。16は刀子の破片で、錆の進行が著しく、先端部が折れている。

第80号住居跡（第281図）

調査区の中央、西寄りのＵ・Ｖ－８グリッド、ＳＪ74と81の中間に位置している。西辺をＳＤ115、カマドの煙道をＳＫ1030と重複している。平面形態は長方形で、規模は残存する長辺3.43ｍ、短辺2.54ｍ、深さ0.20ｍである。主軸方向はＮ－46°－Ｅである。

カマドは北辺中央、やや東寄りに１基検出された。袖は左右とも僅かに残り、ロームブロックと灰色粘土を基本に構築されている。焚口は所々窪んでおり、燃焼に向かって緩やかに傾斜する。燃焼の底面は平坦で、側壁は逆ハの字状にひらいて立ち上がる。

覆土は焼土粒子を多く含む暗褐色土で、壁際は部分的に撹乱等による土層に変化がみられる。

床面は中心部がやや低くなっているが、貼り床は検出されなかった。また、床面には部分的に焼土が集中する所が数ヵ所検出されたが、小鍛冶に伴う炉跡は確認できなかった。ピットは中央部に１基検出された。形態は円形で、直径約30cm、深さ６cmであった。覆土には焼土は少量含まれていたが、底面には被熱の痕跡は認められなかった。壁溝は部分的に切れるが、ほぼ全周するものとみられる。

出土遺物（第282図）

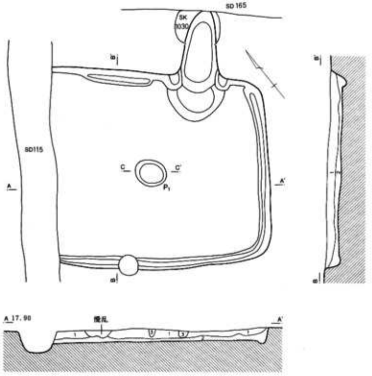
出土遺物には須恵器坏、高台付埦、灰釉皿、土師器台付甕、小型甕、甕、鎌、刀子がある。遺物はカマド内が主体で、床面からも少量出土している。１は須恵器坏、２は須恵器高台付埦で、口縁部先端が大きく外反する。ともに体部から口縁部にかけて平滑に調整されるが、ロクロ痕跡は明瞭である。２の内面は炭化物が付着している。３は灰釉の耳皿で、耳の一部を欠く。灰釉はハケ塗りであるが、殆ど剝れている。

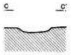
４は土師器台付甕の脚部の破片。５は土師器小型甕で、口縁部は短く、大きく外反する。外面胴部は縦から横方向のハケ目、内面は底部付近に横方向のハケ状工具のなでで調整される。県内では出土例が稀で、甲斐型甕などに同様な調整がみられる。底部には木葉痕が明瞭に残る。６は土師器甕で、口縁部が短く、胴部下半を欠く。

７・８は鉄製品で、７は不明、８は刀子の基部付近の破片である。

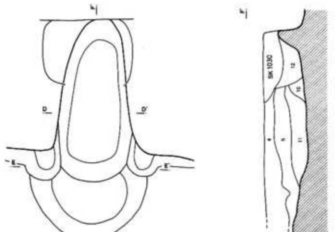
住居跡の年代は、出土遺物から10世紀前半と考えられる。

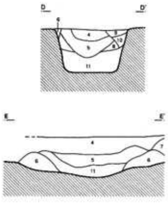
第281図　第80号住居跡・カマド





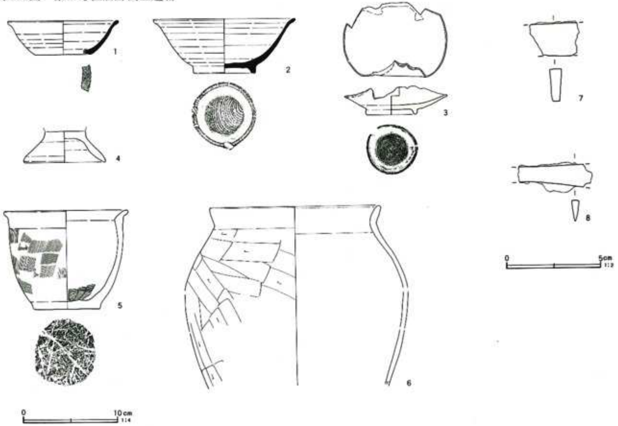
SＪ80
1　暗褐色土　　焼土粒子少量、ローム粒子多量含む。
2　暗褐色土　　ローム粒子、ロームブロック多量含む。
3　灰褐色土　　灰白色粒子、灰色ブロック、黒褐色ブロック少量含む。



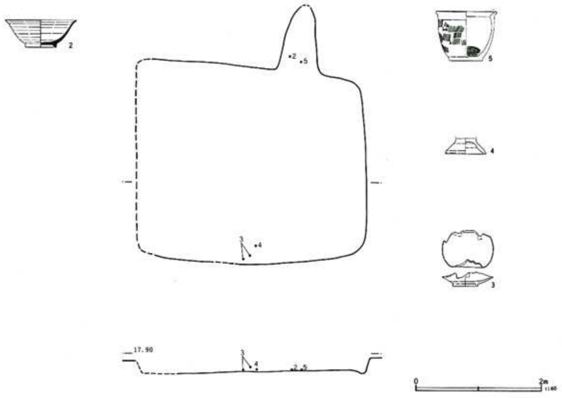


カマド
4　暗褐色土　　焼土粒子多量、ローム粒子少量含む。
5　暗褐色土　　ローム粒子多量、焼土粒子、焼土ブロック少量含む。
6　暗黄褐色土　炭化粒子少量、ローム粒子多量含む。
7　暗褐色土　　焼土粒子、ローム粒子、ロームブロック少量含む。
8　暗褐色土　　焼土粒子、ローム粒子、灰色ブロック少量含む。
9　黄褐色土　　ローム粒子多量、暗褐色ブロック少量含む。
10　暗黄褐色土　ローム粒子多量含む。粘性あり。
11　暗褐色土　　焼土粒子、炭化粒子、灰色粒子少量含む。
12　暗黄褐色土　ローム粒子多量含む。

第282図　第80号住居跡出土遺物



第283図　第80号住居跡遺物分布図



第80号住居跡出土遺物観察表（第282図）

番号	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　　考
1	坏	(11.8)	3.6	(6.0)	CKL	A	灰色	10	火だすき痕　口縁部に自然釉
2	高台付埦	(15.1)	5.8	6.6	BDFKL	C	暗褐色	70	内面剥離
3	耳皿	10.9	3.0	5.4	BD	A	灰白色	70	灰釉はハケで施釉
4	台付甕			8.7	AEFKL	A	橙褐色	10	
5	小型甕	(13.2)	11.4	7.0	BK	A	赤褐色	70	全体にもろく風化　玄型甕
6	甕	(18.2)			FK	A	橙褐色	50	内面風化
7	刀子	長さ(3.35)×身幅1.1×胸幅0.4cm、重量5.16ｇ							刃部片
8	鉄製品	長さ(2.5)×幅1.7×厚さ0.7cm、重量9.95ｇ							不明

第81号住居跡（第284～286図）

調査区の北西、Ｖ－８グリッドに位置している。周辺の住居群の中では、最大級の規模をもち、３基のカマドを有する。平面形態は東西方向に長辺をもつ長方形で、規模は長辺５ｍ、短辺4.50ｍ、深さ0.34ｍである。主軸方向はＮ－68°－Ｗである。

カマドは北辺に２基、東辺に１基検出された。いずれも壁を大きく掘り込んで構築しているが、袖は遺存状態が悪く、どのカマドからも確認することはできなかった。カマドは壁溝の先後関係、遺物の出土状況などから古い順にｂ→ａ→ｃと考えられるが、ａは単独で構築され、ｂとも形態の類似性、ａとｂはｃに比べて良く被熱していること、適度に距離があることなどからｂと同時存在した可能性も高い。

カマドは壁を大きく掘り込むが、燃焼面は内側に大きく掘り込まれている。袖は確認できなかったが、通常の住居に比べて袖の占める空間は大きいものと考えられる。また、床面から燃焼面の底面までは約10cmあり、底面に多少の凹凸があるにもかかわらず、使用されたものとみられる。

覆土はカマド周辺は赤褐色に変化しているが、住居内はローム粒子やロームブロックを主体とする暗褐色土で構成されている。床面や付近の土層では次第に焼土と炭化物の量が増加し、床面の被熱の状況からも最終的には焼失した後、廃棄されたものとみられる。

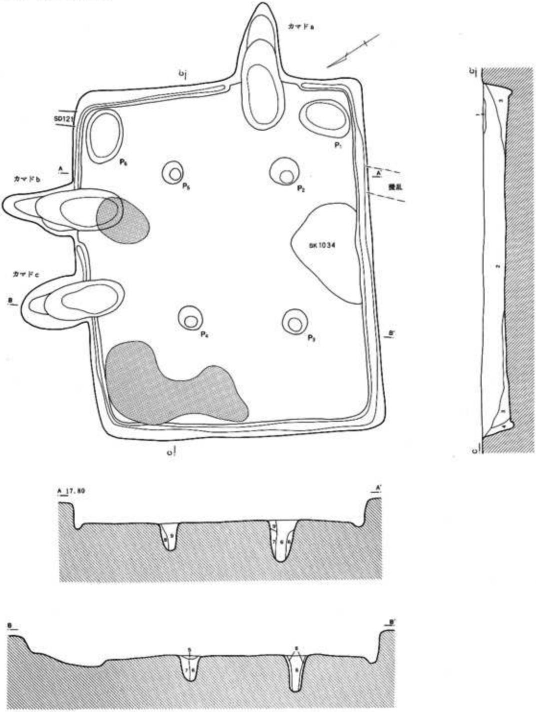
床面は平坦で、やや南側に傾斜している。貼り床は確認できなかったが、南壁際にＳＫ1034確認された。ＳＫ1034は調査の結果、住居跡に伴うものではなく、住居を構築する際に埋め戻したものと判断した。ＳＫ1034からの出土遺物はなかった。また、床面には北西隅、カマドｂの焚口付近に焼土を多量に伴う浅い掘り込みが検出された。覆土からは焼土や炭化物に混じって、スラグの粒子が確認された。住居内から鉄製品は出土しなかったが、この住居跡が小鍛冶に関連したものであった可能性は高い。

貯蔵穴は、カマドａとｂの右側に１基づつ検出された。Ｐ１の付近からは須恵器類の遺物が数多く出土した。Ｐ２～５は住居の主柱穴で、今回の調査で定型的な柱穴は異例といえる。また、壁溝はカマドの部分を除いて全周する。カマドｃは壁溝を壊して構築されているが、ａやｂの燃焼面内には掘り直した壁溝は確認でないことから、ｃの構築時には壁溝のつくり替えは行なわなかったものと考えられる。

出土遺物（第287図）

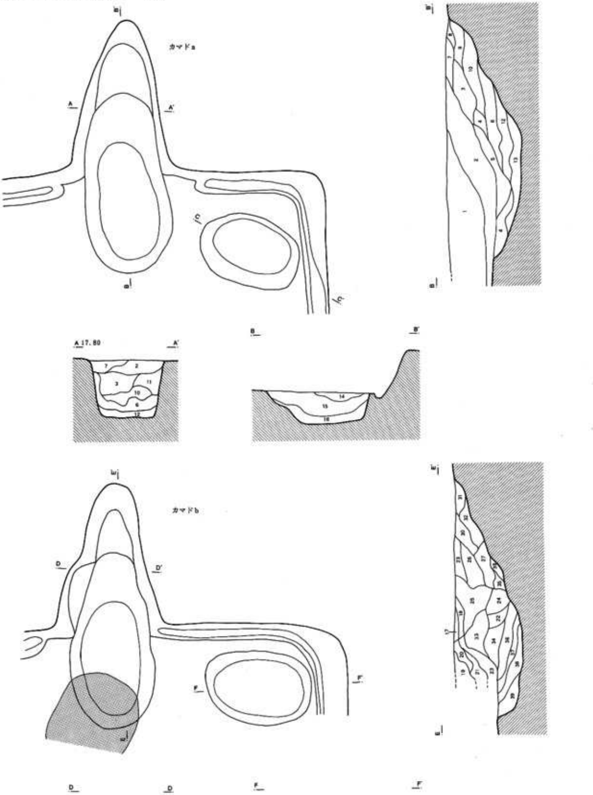
出土遺物には須恵器坏、埦、蓋、土師器小型鉢、台付甕、鉢、甕がある。遺物はカマド内及びカマド周辺から数多く出土している。１～13は須恵器坏で、口縁部が僅かに外反するものと内湾するものがある。口径はいずれも約12cmで、少量ではあるが深身が混じる。底部は回転糸切りで、すべて南比企産である。14は須恵器埦、15は須恵器蓋の破片である。ともに南比企産であるが、ロクロ痕跡を強く残す。16は土師器小型鉢の破片。体部下半は甕類のように横方向にヘラケズリされる。17・18は台付甕の口縁部と脚部の破片である。19は土師器鉢の破片で、胴部はヘラケズリ、口縁部及び内面は丁寧に横なでされている。20・21はいわゆる「コ」の字口縁の甕で、口縁部の粘土の繋ぎが明瞭に残るタイプである。22は混入したものでキセルの吸口部の破片である。住居跡の年代は、出土遺物から９世紀後半と考えられる。

第284図　第81号住居跡

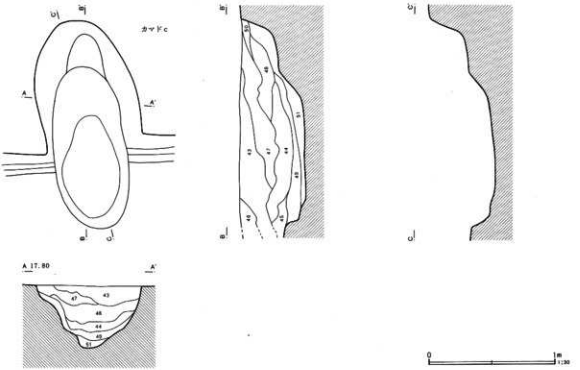


SＪ81
1　暗黄褐色土　ローム粒子 、ロームブロック多量含む。
2　暗褐色土　　ローム粒子多量、焼土粒子、炭化粒子少量含む。
3　暗褐色土　　焼土粒子少量、ローム粒子、ロームブロック多量含む。
4　暗褐色土　　ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。軟質。
5　暗褐色土　　ローム粒子少量、焼土粒子微量含む。
6　暗褐色土　　ローム粒子、ロームブロック少量、焼土粒子微量含む。
7　暗褐色土　　ロームブロック微量含む。
8　暗褐色土　　ロームブロック少量含む。
9　暗黄褐色土　ロームブロック多量含む。

第285図　第81号住居跡カマド(I)

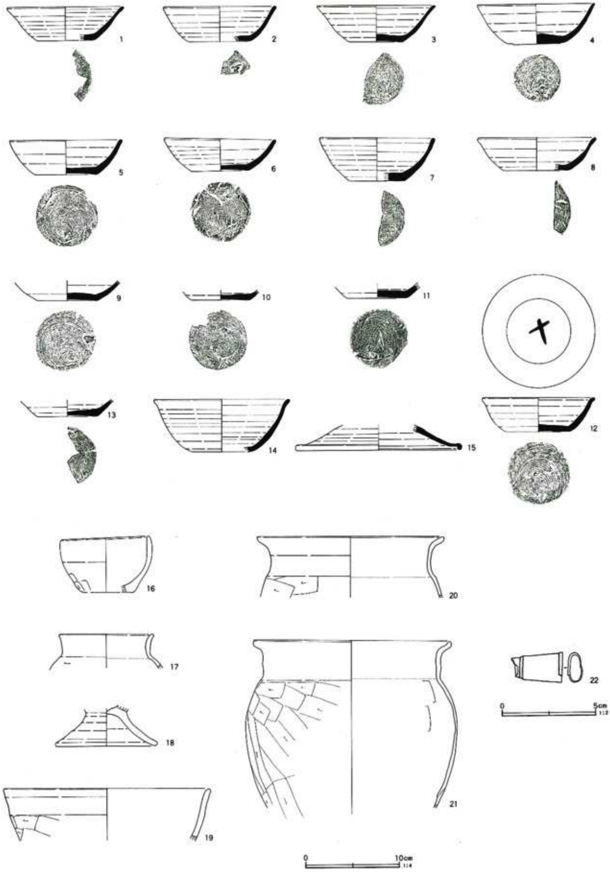


第286図　第81号住居跡カマド(2)

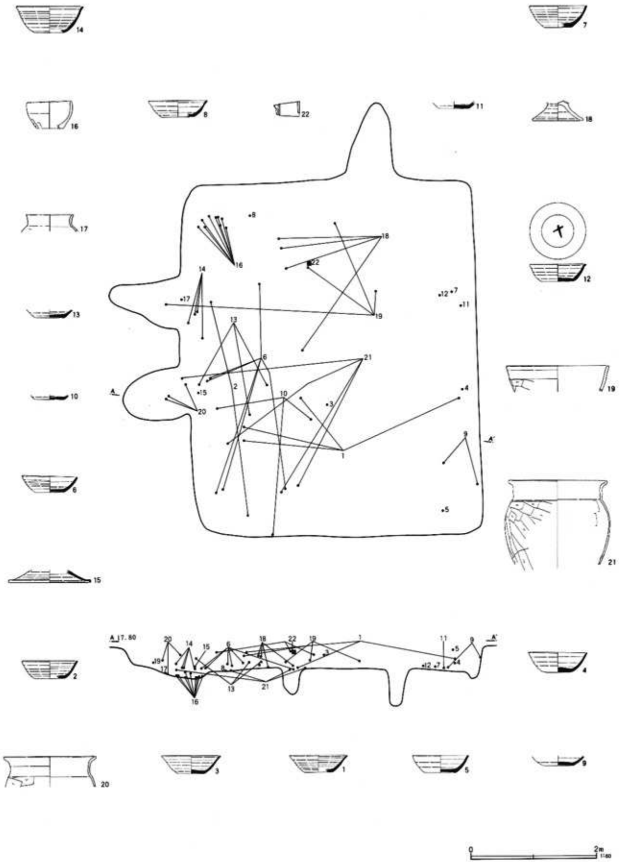


ＳＪ８１カマドa
1　暗褐色土　焼土粒子多量、焼土ブロック、 炭化粒子、ローム粒子少量含む。
2　暗褐色土　焼土粒子多量、焼土ブロック少量含む。
3　暗褐色土　焼土粒子、焼土ブロック少量含む。
4　暗灰褐色土　焼土粒子微量含む。
5　暗灰褐色土　焼土粒子微量、灰褐色ブロック多量含む。
6　暗褐色土　灰白色粒子、焼土粒子、焼土ブロック少量含む。
7　暗赤褐色土　焼土粒子、灰色粒子、ローム粒子少量含む。
8　暗赤褐色土　焼土粒子、灰色ブロック少量含む。
9　暗褐色土　ロームブロック多量含む。
10　暗赤褐色土　焼土ブロック多量含む。
11　暗褐色土　焼土粒子、ローム粒子、焼土ブロック少量含む。
12　暗赤褐色土　焼土ブロック多量、焼土粒子、灰色粘土ブロック少量含む。
13　暗赤褐色土　焼土粒子、炭化粒子、焼土ブロック、ロームブロック少量含む。
14　暗褐色土　焼土粒子少量、ローム粒子微量含む。
15　暗褐色土　焼土粒子多量、炭化粒子、ローム粒子少量含む。
16　暗灰褐色土　ローム粒子、ロームブロック多量含む。
カマドb
17　暗灰褐色土　ローム粒子、焼土粒子少量、灰褐色ブロック多量含む。
18　暗褐色土　焼土粒子、炭化粒子、灰褐色ブロック少量含む。
19　暗褐色土　ローム粒子、焼土粒子多量、焼土ブロック少量含む。
20　暗褐色土　ローム粒子、焼土ブロック少量含む。
21　暗褐色土　焼土ブロック、灰色ブロック少量含む。
22　暗褐色土　焼土ブロック多量含む。
23　暗褐色土　焼土粒子微量、ローム粒子少量、灰色粘土ブロック多量含む。
24　明褐色土　焼土粒子、焼土ブロック少量含む。軟質。
25　暗褐色土　焼土粒子少量、焼土ブロック多量含む。軟質。
26　暗赤褐色土　焼土粒子多量含む。
27　赤褐色土　焼土塊、焼土ブロック多量含む。
28　黄褐色土　地山。
29　暗褐色土　焼土粒子少量含む。
30　暗赤褐色土　焼土粒子多量含む。
31　暗赤褐色土　焼土ブロック少量含む。
32　暗赤褐色土　ローム粒子少量、焼土ブロック多量含む。
33　暗褐色土　焼土粒子、焼土ブロック少量含む。
34　暗褐色土　ローム粒子、焼土粒子、灰色粒子、焼土ブロック、灰色ブロック少量含む。
35　明褐色土　ローム粒子、炭化ブロック少量、焼土粒子微量含む。
36　暗褐色土　ローム粒子、焼土粒子少量含む。
37　褐色土　ロームブロック少量含む。
38　褐色土　焼土粒子、ロームブロック少量含む。
39　暗赤褐色土　炭化粒子少量、焼土粒子、焼土ブロック多量含む。
40　暗褐色土　焼土粒子少量含む。
41　暗褐色土　焼土粒子、焼土ブロック、ロームブロック少量含む。
42　褐色土　ロームブロック少量含む。
カマドc
43　暗褐色土　焼土粒子、炭化粒子、灰色粘土ブロック少量含む。
44　暗褐色土　炭化粒子少量、焼土粒子、焼土ブロック、炭化ブロック多量含む。
45　暗褐色土　灰色粘土粒子少量、焼土ブロック、炭化粒子多量含む。
46　暗褐色土　焼土粒子少量、灰褐色ブロック多量含む。
47　暗赤褐色土　焼土粒子、焼土ブロック多量、炭化粒子、ローム粒子微量含む。
48　暗赤褐色土　焼土粒子、焼土ブロック多量含む。
49　褐色土　焼土粒子、ローム粒子少量含む。
50　明褐色土　焼土粒子少量含む。
51　明褐色土　ロームブロック少量含む。

第287図　第81号住居跡出土遺物



第288図　第81号住居跡遺物分布図



第81号住居跡出土遺物観察表（第287図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.2)	3.5	(6.0)	ACKL	A	灰白色	20	
2	坏	(12.0)	3.7	(6.6)	BKL	A	明赤褐色	10	
3	坏	(12.6)	3.8	5.8	CDKL	A	オリーブ灰色	20	
4	坏	12.5	4.3	5.0	CGKL	C	灰オリーブ色	90	
5	坏	(12.0)	3.6	6.6	ACKL	A	灰黄色	50	内面に炭化物付着
6	坏	11.9	3.6	6.1	CDKL	A	灰色	100	
7	坏	(12.2)	4.5	(6.0)	GKL	A	灰白色	20	
8	坏	12.6	3.5	(7.0)	ACKL	A	浅黄色	20	風化
9	坏			6.3	ACDKL	A	灰色	30	
10	坏			6.4	ABCKL	A	灰色	20	
11	坏			6.3	CKL	C	灰白色	10	炭化物付着
12	坏	12.1	3.7	6.8	BCK	A	灰色	90	墨書「×」か？　ヘラ記号あり
13	坏			(6.4)	CKL	A	浅黄橙色	10	
14	埦	(14.4)	5.5	(6.2)	ACKL	C	黄褐色	10	
15	蓋	(18.6)			BDF	C	橙褐色	25	末野産
16	小型鉢	9.6	5.8	5.4	K	A	黒褐色	50	風化著しい　内面及び口縁部外面黒色処理
17	台付甕	10.0			BKL	A	淡黒褐色	20	内面風化
18	台付甕			(11.4)	BEKL	C	暗褐色	10	外面に付着物
19	鉢	(22.0)			HK	A	黒褐色	15	全面に炭化物付着
20	甕	(20.0)			BKL	A	暗赤褐色	25	
21	甕	21.0			EKL	A	淡赤褐色	60	
22	キセル	長さ2.75×幅1.6cm、重量2.51ｇ							銅製品　雁首吸口

第82号住居跡（第289・290図）

調査区の中央、やや西寄りのＴ－11グリッドに位置している。カマドのある東辺はＳＳ60に隣接し、覆土も類似することや他の遺構との重複のために形態の確認が難しかった。

平面形態は、東辺がやや長い不正方形とみられたが、調査の結果、東辺を共通した２軒の住居跡の重複であることが明らかになった。ここでは便宜上、住居の拡張と捉え、１軒の住居跡として取り扱う。住居は壁溝との重複関係から、カマドａをもつ小型の住居が古く、カマドｂをもつ大型の住居が新しい。大型の住居の規模は長辺4.02ｍ、短辺3.67ｍ、深さ0.08ｍで、主軸方向はＮ－109°－Ｅである。

覆土はローム粒子を含む暗褐色土で、部分的に後世のピットなどと重複する箇所がある。床面の位置は共通であったが、検出されたピットの多くは配置などからも帰属が不明瞭であった。また、床面には焼土などは検出されなかった。壁溝はカマドａ・ｂの住居とも全周せず、部分的に途切れる。深さは約５cmである。

カマドｂは東辺中央、やや北寄りに付設され、壁を約50cm掘り込んで構築されている。袖は既になく、燃焼面の掘形が検出された。遺物はカマドの天井や袖の補強材に使用されたとみられる被熱の痕跡を伴った片岩が数点出土している。また、底面の被熱部分は弱かった。カマド内の覆土は焼土を含む暗褐色土で構成されるが、焚口付近などには後世のピット（Ｐ３）が入るなど、部分的に土層に変化が観察された。

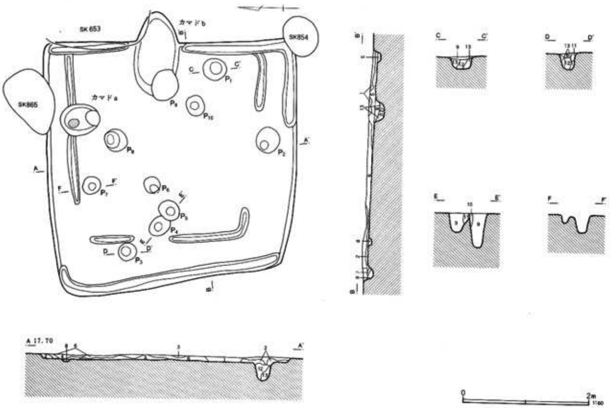
カマドａは北辺やや東寄りに付設され、検出状況から壁を10cm余り掘り込んで構築されたものと推定された。燃焼面は焚口寄りをカマドｂと同様、後世のピットと重複する。底面はカマドｂに比べて、強く被熱が観察された。

出土遺物（第290図）

出土遺物には須恵器坏、長頸瓶、甕、酸化焔焼成坏、灰釉長頸瓶、土師器羽釜、支脚がある。遺物の大部分は、カマドｂの左側付近（カマドａの上にのっている）から集中して出土した。

１は厚手の須恵器坏小破片。２は酸化焔焼成された坏の破片で、成形にはロクロが使用されている。口径が大きいため、あるいは高台付埦の可能性もある。３は須恵器長頸瓶の底部付近の破片。４は須恵器甕の肩部の破片で、自然釉が付着している。５は灰釉の長頸

第289図　第82号住居跡



SJ82
1　暗褐色土　ローム粒子多量含む。
2　暗黄褐色土　ロームブロック多量含む。
3　暗黄褐色土　ローム粒子、ロームブロック少量含む。
4　暗褐色土　ローム粒子、灰色粒子多量含む。
5　黒褐色土　ローム粒子多量含む。
6　暗褐色土　ローム粒子少量含む。
7　暗黄褐色土　ローム粒子、ロームブロック少量含む。
8　明褐色土　ローム粒子少量含む。
9　黒褐色土　ローム粒子、ロームブロック少量含む。
10　暗褐色土　ロームブロック少量含む。
11　暗褐色土　ローム粒子、ロームブロック少量含む。
12　暗褐色土　ローム粒子少量含む。
13　暗褐色土　ローム粒子多量含む。

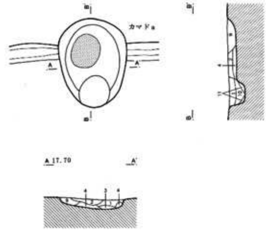
瓶で、口縁部先端と底部を欠く。東海産。6は土師器羽釜の口縁部破片。口縁部は短く、内傾が強い。部分的に炭化物が付着している。7は土製支脚の破片で、外面は縦方向にヘラケズリされている。

住居跡の年代は、出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

第82号住居跡出土遺物観察表（第290図）

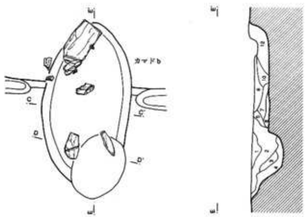
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏			(6.0)	DKL	A	灰色	10	一部炭化物が付着
2	坏	(14.8)			ADEHKL	C	橙褐色	10	風化　酸化焔焼成
3	甕			(13.0)	CDFKL	C	黄褐色	10	
4	甕				BCFL	C	淡橙褐色	10	
5	長頸瓶				GK	A	灰色	20	頸部～外部下端に釉
6	羽釜	(21.6)			BEKL	C	黒褐色	10	
7	支脚	長さ(13.6)×幅8.4×厚さ8.5cm							

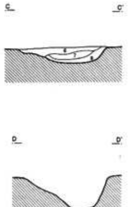
第290図　第82号住居跡カマド・出土遺物

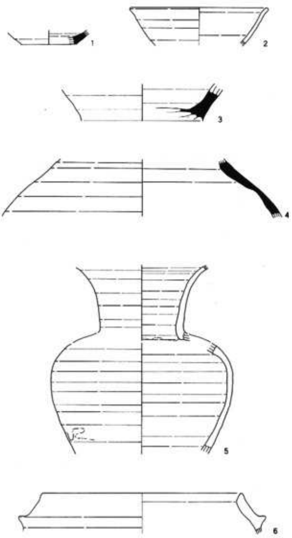


SＪ８２カマドa・b

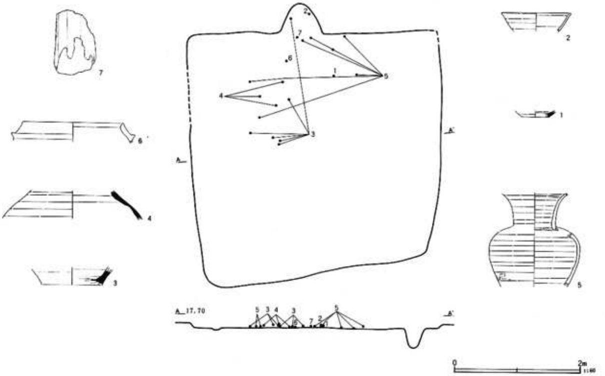
1	黒褐色土	焼土粒子、ローム粒子少量、黒褐色ブロック多量含む。
2	暗褐色土	焼土粒子多量、炭化粒子、焼土ブロック、ロームブロック少量含む。
3	暗褐色土	ローム粒子少量、焼土粒子微量含む。
4	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。
5	暗赤褐色土	焼土粒子、焼土ブロック多量含む。
6	暗赤褐色土	焼土粒子、黒褐色ブロック、焼土ブロック多量含む。
7	赤褐色土	焼土ブロック多量含む。
8	黄灰色土	ローム塊。
9	明褐色土	ローム粒子、焼土粒子少量含む。
10	黒褐色土	焼土粒子、ローム粒子少量含む。
11	暗褐色土	ローム粒子少量含む。
12	暗褐色土	焼土粒子、ローム粒子少量含む。







第291図　第82号住居跡遺物分布図



第83号住居跡（第292図）

調査区の中央、やや西寄りＳ－10グリッドに位置している。ＳＳ59の上に構築されるが、後世の土壙ＳＫ1027などと重複し、西側の一部を除いて原形を留めていない。平面形態は長方形と考えられ、規模は長辺3.33m、短辺2.76m、深さ0.10mである。主軸方向はN－29°－Eと推定される。

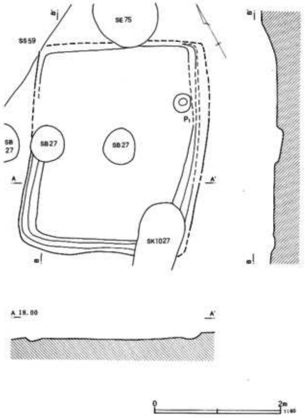
覆土はＳＳ59と同様のローム粒子、ロームブロックを含む暗褐色土で、当初は住居跡の存在は確認できなかった。古墳跡の調査を行なう過程で、壁溝が検出され、初めて住居の存在が明らかになった。

カマドは検出されなかったが、壁溝の残存状況などから判断すると、北辺に付設されていたものと推定できる。床面は不明瞭で、確認された部分は殆どが掘形である。壁溝は西側部分が検出されたが、東側は重複する遺構のために確認できなかった。

出土遺物（第293図）

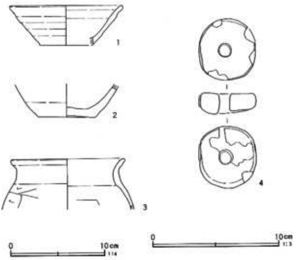
出土遺物には酸化焔焼成坏、台付甕、紡錘車がある。いずれも覆土中から出土したものである。

第292図　第83号住居跡

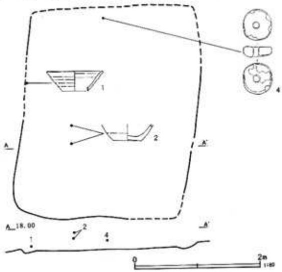


1・2は酸化焔焼成の坏で、厳密には土師質ではない。淡褐色～淡橙褐色をし、ロクロを用いて成形をしている。2の底部は手持ちのヘラケズリである。3は土師器甕の口縁部から胴部上半の破片である。口縁部は短く、厚手である。4は滑石製の紡錘車で、孔は中心をやや逸れている。

第293図　第83号住居跡出土遺物



第294図　第83号住居跡遺物分布図



第83号住居跡出土遺物観察表（第293図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.0)	4.2	(5.6)	BK	C	灰褐色	30	酸化焔焼成
2	坏			6.4	EK	C	淡橙褐色	60	器面の風化著しい　酸化焔焼成
3	甕	(12.0)			EKL	A	暗赤褐色	10	
4	紡錘車	長径4.9×短径4.5×孔径1.0×厚さ1.6cm、重量45.1g							

第84号住居跡（第295図）

調査区の中央、西寄りのU－8グリッドに位置している。SJ78～80と隣接し、SJ78・80とはカマドの向きを同一方向にしている。住居は、後世のSD99や土壙群との重複によって、一部を除き原形を留めていない。平面形態はほぼ正方形で、各辺はカマドの付設された辺を除き、外側に膨らんでいる。規模は長辺3.50m、短辺3.47m、深さ0.35mである。主軸方向はN－51°－Eである。

覆土はローム粒子を含む暗褐色土で、上層は他の遺構との重複によって土層に変化がみられるが、下層はSD99が床面まで掘り込まれていることを除けば、特に大きな変化は観察されなかった。

カマドは東辺やや南寄りに1基検出された。カマドの北側半分はSD99に、南側半分はSK619によって壊され、僅かに燃焼面底面と側壁の立ち上がりが検出されたにとどまった。底面や側壁は被熱した痕跡が明瞭に残り、土師器甕が潰れた状態で出土した。

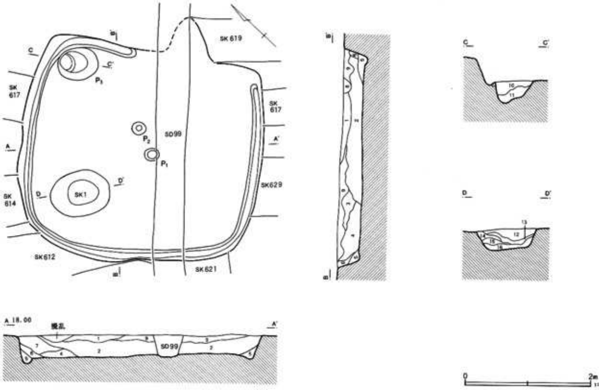
床面は平坦で、やや西側に傾斜している。貼り床は検出されなかった。また、西隅からは楕円形の土壙SK1が検出され、須恵器甕の破片が出土した。

ピットは3基検出され、北隅に位置するP3が貯蔵穴とみられる。本遺跡では、カマドの左側に付設される貯蔵穴例は異例である。壁溝はカマド周辺を除いて全周し、西側に向かって浅くなっていた。

出土遺物（第296図）

出土遺物には、須恵器坏、甕、土師器甕、砥石、穂摘み具がある。土師器甕はカマド付近、その他は床面や土壙内から出土している。1～3は須恵器坏で、いずれも破片である。4は口縁部が大きくひらき、やや

第295図　第84号住居跡



SJ84
1　暗褐色土　ローム粒子、ロームブロック多量含む。
2　暗褐色土　ローム粒子微量含む。
3　暗褐色土　ロームブロック少量含む。
4　暗褐色土　ロームブロック多量含む。
5　暗黄褐色土　ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
6　明褐色土　ローム粒子少量含む。
7　暗褐色土　ローム粒子少量含む。
8　黒褐色土　ローム粒子少量含む。
9　暗褐色土　ローム粒子微量含む。
10　暗褐色土　ローム粒子、焼土粒子、灰褐色粘土粒子多量、炭化粒子少量含む。
11　暗褐色土　焼土粒子、ローム粒子、ロームブロック少量含む。
12　暗褐色土　黒褐色ブロック、焼土ブロック少量、焼土粒子、ローム粒子、炭化粒子微量含む。
13　暗褐色土　ローム粒子、灰褐色粘土粒子多量、焼土粒子、炭化粒子、灰色粘土ブロック、焼土ブロック少量含む。
14　暗褐色土　ローム粒子多量、灰色粘土粒子、焼土粒子少量含む。
15　暗褐色土　ローム粒子多量含む。
16　暗褐色土　ローム粒子、灰色粘土粒子少量含む。

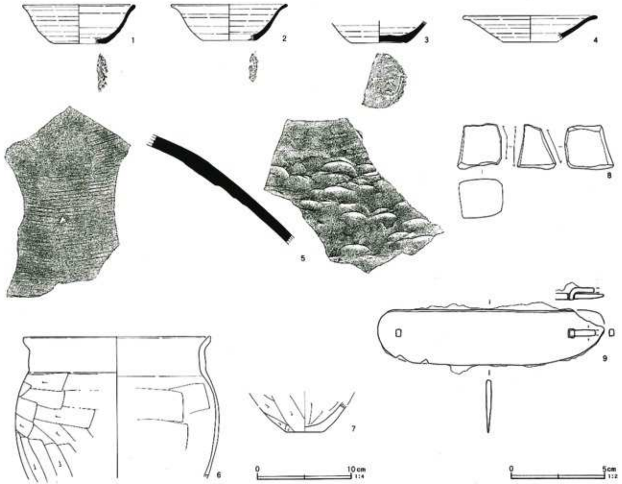
器高が高い。南比企産である。5は須恵器甕の肩部の破片で、外面は平行叩き、内面は蒲鉾状の当て具の痕跡を明瞭に残している。6・7は土師器甕の口縁部から胴部、底部付近の破片である。口縁部はいわゆる「コ」の字口縁で、胴部全体に膨らみをもっている。底部はヘラケズリである。8は砂質系砥石の破片である。9は鉄製の穂摘み具で、両端に方形の目釘孔があり、一方に目釘が埋め込まれた状態で残る。

住居跡の年代は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

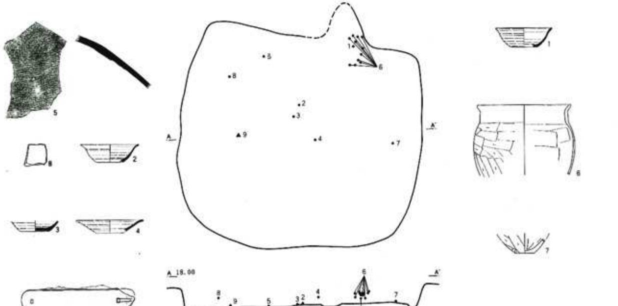
第84号住居跡出土遺物観察表（第296図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.0)	4.1	5.6	CKL	A	灰色	10	
2	坏	(12.4)	3.8	(5.8)	GKL	C	灰白色	10	
3	坏			6.0	BGKL	B	灰白色	20	
4	皿	(14.3)			BDKL	A	灰色	10	
5	甕				BCKL	A	暗青灰色	10	
6	甕	(20.0)			KL	A	淡赤褐色	50	
7	甕			4.0	EHK	A	淡黒褐色	50	炭化物付着
8	砥石	長径(4.7)×短径4.8×厚さ4.2cm、重量107.3g							
9	穂摘み具	長さ12.1×幅2.9×厚さ0.25cm、重量33.56g							両端に方形の目釘孔あり　一方に目釘のこる

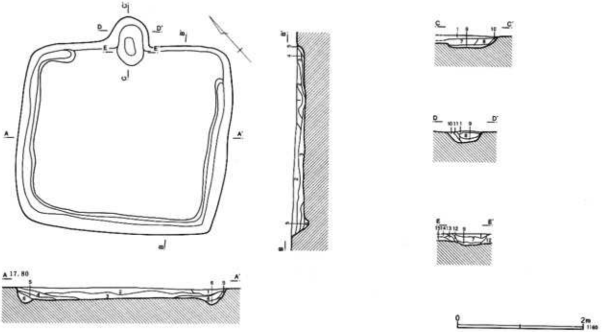
第296図　第84号住居跡出土遺物



第297図　第84号住居跡遺物分布図



第298図　第85号住居跡



SJ85		
1	灰褐色土	灰褐色粘土粒子多量、白色粒子少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子少量含む。
3	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量、炭化粒子微量含む。
4	暗黄褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。軟質。
5	暗黄褐色土	ローム粒子多量含む。
6	暗褐色土	ローム粒子微量含む
7	暗赤褐色土	焼土粒子、炭化粒子多量含む。
8	赤褐色土	焼土粒子、焼土ブロック多量含む。
9	黒褐色土	炭化粒子多量含む。
10	暗黄褐色土	ローム粒子多量、焼土粒子微量含む。
11	褐色土	ローム粒子、焼土粒子微量含む。
12	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子少量含む。
13	暗褐色土	灰褐色粘土粒子多量、焼土粒子少量含む。
14	暗褐色土	ローム粒子少量含む。
15	黄褐色土	ローム粒子多量含む。

第85号住居跡（第298図）

調査区中央、北側のW－8グリッドに位置し、SJ81、86～89などと隣接する。平面形態は長方形で、規模は長辺3.30m、短辺2.88m、深さ0.15mである。主軸方向はN－42°－Eである。

覆土は焼土粒子と炭化粒子を含む暗褐色土で、他の遺構との重複も殆どなく大きな土層の変化はみられなかった。

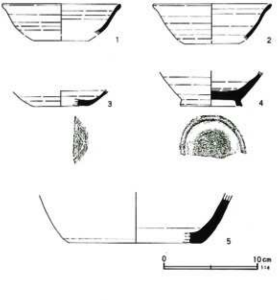
カマドは、東辺中央に1基検出された。既に袖はなく、周辺には補強材に用いたとみられる灰褐色の粘土粒子が観察された。燃焼面の底面では炭化物が多くみられた。

床面は、中心部に凹凸がみられたが、ほぼ平坦である。貯蔵穴、ピットなどは検出されなかった。また、壁溝は、カマドの付設された東辺を除いて全周する。

出土遺物（第299図）

出土遺物には須恵器坏、高台付埦、広口壺がある。遺物は量が少なく、いずれも覆土中から出土したもの

第299図　第85号住居跡出土遺物



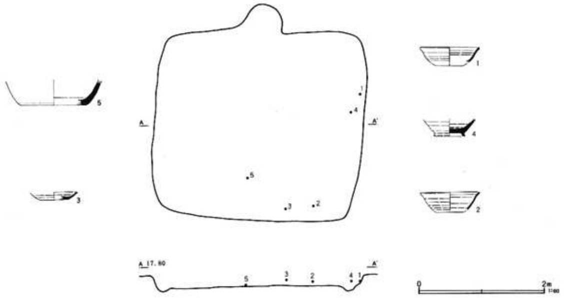
である。

1～3は須恵器坏で、口縁部先端で外反する。体部のロクロの痕跡を強く残し、底部は回転糸切りである。南比企産である。4は須恵器高台付埦の体部から底部にかけての破片である。全体に厚手のつくりである。

5は須恵器広口壺の底部付近の破片である。内外面とも横なでて調整されている。

住居跡の年代は、出土遺物から9世紀後半から10世紀初め頃と考えられる。

第300図　第85号住居跡遺物分布図



第85号住居跡出土遺物観察表（第299図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.6)			CKL	A	オリーブ灰色	10	口縁部わずかに自然釉
2	坏	(12.6)			GK	C	灰白色	10	表面やや風化
3	坏			(5.7)	DIKL	C	浅黄色	10	
4	高台付埦			6.6	BCKL	A	オリーブ灰色	10	底部内面に自然釉付着
5	広口壺			(15.0)	BCDKL	A	灰色	10	高台の痕跡　内面に炭化物付着

第86号住居跡（第301図）

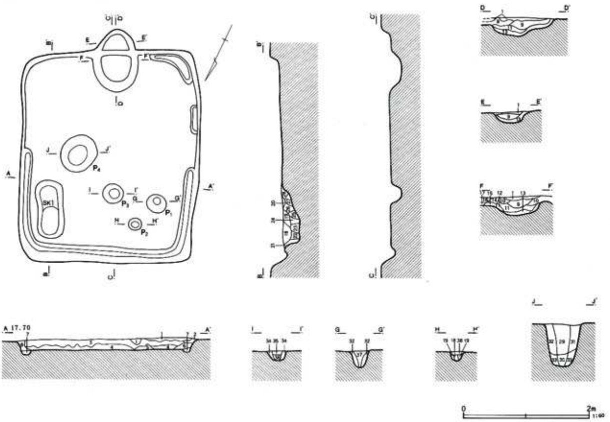
調査区の中央、北側W－8グリッドにＳＪ85と接するように位置している。平面形態は長方形で、規模は長辺3.37m、短辺2.69m、深さ0.14mである。主軸方向はN－25°－Wである。

覆土はローム粒子、焼土粒子、炭化粒子を少量含む暗褐色土で、カマド周辺及び南側の隅には撹乱が入り、所々土層が変化しているのが観察された。

カマドは南東側の辺、中央に1基検出された。袖は既になく、燃焼面から煙道にかけては、約10cmの段差が認められた。覆土は、上層では灰褐色粘質土と焼土が混じり、下層では焼土と炭化物が多く含まれていた。

床面は平坦で、特に貼り床や炉跡は検出されなかった。ピットは4基検出され、P4は直径が約60cmと他の約2倍の大きさをもつ。断面の観察では柱状の痕跡が確認できたが、どのような性格のものであるかは未確定である。また、北側の隅には、貯蔵穴の可能性が考えられる土壙ＳＫ1が検出された。形態は隅丸長方形で、北寄りに深くなっている。壁溝は北側半分とカマドの南側で部分的に検出された。

第301図　第86号住居跡



SＪ86

1	暗灰褐色土	灰褐色粘土粒子多量、白色粒子少量含む。
2	黒褐色土	ローム粒子微量含む。
3	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子少量、ロームブロック微量含む。
4	暗褐色土	ローム粒子、炭化粒子、ロームブロック少量含む。
5	暗褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
6	褐色土	ローム粒子多量含む。
7	暗黄褐色土	ローム粒子多量含む。軟質。
8	暗褐色土	ローム粒子微量、焼土粒子、炭化粒子多量含む。
9	赤褐色土	焼土粒子多量含む。軟質。
10	暗褐色土	ローム粒子、灰褐色粒子、焼土粒子少量含む。
11	暗褐色土	ローム粒子少量含む。軟質。
12	暗褐色土	ローム粒子少量、灰褐色粒子多量含む。
13	褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。硬質。
14	灰褐色土	灰褐色粒子多量含む。
15	暗褐色土	灰褐色粒子、ローム粒子少量含む。
16	暗褐色土	ローム粒子少量含む。
17	暗褐色土	ローム粒子多量含む。軟質。
18	暗褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック微量含む。
19	暗褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
20	暗褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。
21	暗褐色土	ロームブロック微量含む。
22	暗褐色土	ローム粒子多量含む。
23	暗黄褐色土	ロームブロック多量含む。
24	暗褐色土	ローム粒子微量含む。
25	暗黄褐色土	ロームブロック少量含む。粘性あり。
26	暗黄褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。
27	暗黄褐色土	ロームブロック多量含む。粘性あり。
28	暗褐色土	ローム粒子少量含む。
29	暗褐色土	焼土粒子少量、ローム粒子、ロームブロック、炭化物多量含む。
30	暗褐色土	ロームブロック少量含む。
31	暗褐色土	ローム粒子多量、焼土粒子微量含む。
32	暗褐色土	ローム粒子少量含む。
33	暗褐色土	ローム粒子少量含む。
34	暗黄褐色土	ロームブロック少量含む。
35	暗褐色土	ローム粒子少量含む。
36	明褐色土	ローム粒子少量含む。
37	暗褐色土	焼土粒子微量含む。
38	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子少量含む。

出土遺物（第302図）

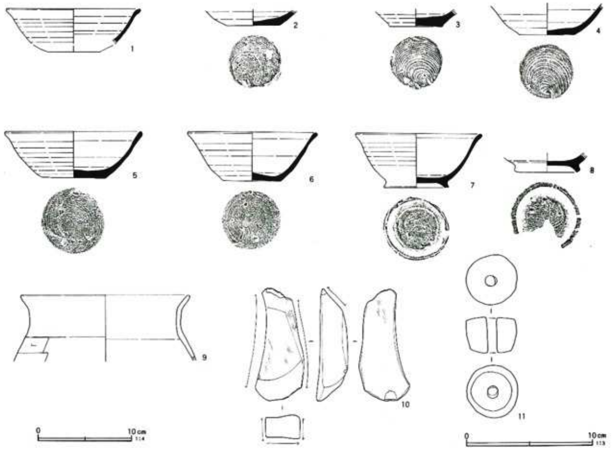
出土遺物には須恵器坏、高台付埦、土師器甕、砥石、紡錘車がある。遺物はカマド周辺及び床面から出土している。1～6は須恵器坏で、大きく分けて浅身（1～4）と深身（5・6）がある。ともに口縁部先端が緩やかに外反し、底部は回転糸切りであるが、深身のタイプは浅身のタイプに比べてロクロの痕跡を強く残し、形態的にも高台付埦に類似する。また、焼成温度も低く、部分的に赤褐色が入るものが多い。1～4は南比企産、5・6は不明である。7・8は須恵器高台付埦で、体部は下半ほどロクロ痕跡が弱くなる。口縁部は緩やかに外反する。末野産と考えられる。

9はいわゆる「コ」の字口縁の土師器甕口縁部破片である。10は砥石で、破損した部分も再調整して研ぎ

面としている。11は石製の紡錘車で、全面にわたって磨かれている。

住居跡は、出土遺物から９世紀末から10世紀初め頃と考えられる。

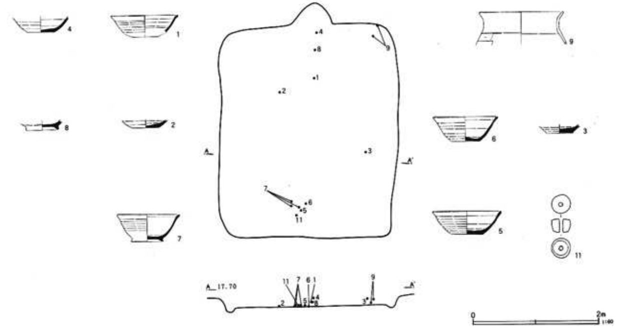
第302図　第86号住居跡出土遺物



第86号住居跡出土遺物観察表（第302図）

番号	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　　考
1	坏	(14.4)			KL	C	暗灰色	20	
2	坏			(5.7)	KL	B	淡灰色	70	
3	坏			5.6	K	C	灰白色	80	
4	坏			6.0	BHKL	C	淡灰褐色	70	
5	坏	14.6	4.9	6.7	ABFIKL	C	黄褐色	90	器面に鉄分　底部に油煙？付着
6	坏	13.7	5.2	6.2	ABCKL	C	黄橙色	100	内面炭化物付着
7	高台付埦	13.5	5.8	6.9	BDKL	C	暗オリーブ色	100	底部高台内面に重ね焼きの痕跡
8	高台付埦			7.0	BKL	A	暗青灰色	50	
9	甕	(18.0)			BKL	B	淡赤褐色	15	内面風化
10	砥石	長径11.8×短径4.8×厚さ2.9cm、重量201.9ｇ							
11	紡錘車	長径4.1×短径4.1×孔径0.8×厚さ2.8cm、重量59.4ｇ							

第303図　第86号住居跡遺物分布図

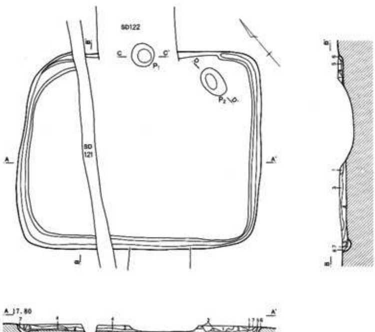


第87号住居跡（第304図）

調査区の中央北側、W－8グリッドに位置し、中央部を後世の溝跡ＳＤ121、122と重複している。平面形態は長方形で、規模は長辺3.87m、短辺3.11m、深さ0.12mである。主軸方向はN－42°－Eである。

覆土はローム粒子、焼土粒子を少量含む暗褐色土で構成されるが、溝との重複によって南側は土層に変化がみられた。

第304図　第87号住居跡



ＳＪ８７

1	灰褐色土	ローム粒子微量、白色粒子少量、灰褐色粘土粒子多量含む。
2	黒褐色土	ローム粒子少量含む。
3	暗褐色土	ローム粒子少量、炭化粒子、焼土粒子多量含む。
4	暗褐色土	ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。
5	暗黄褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。軟質。
6	黄褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
7	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量含む。
8	暗黄褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量含む。
9	暗褐色土	ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子多量含む。粘性あり。
10	暗黄褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。軟質。

カマドは検出されなかったが、ＳＤ122と東辺の交差する地点のピット（Ｐ１）内から焼土が検出されたことや、Ｐ２が貯蔵穴に該当すると考えられることから、Ｐ１がカマドの燃焼面であったと推定された。

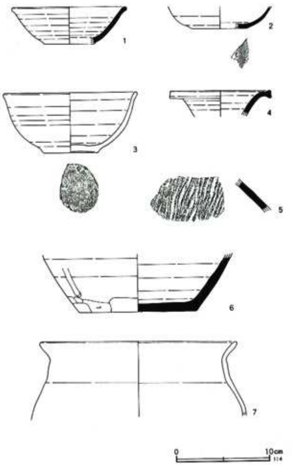
床面は平坦で、炉跡や柱穴などの付属施設は検出されなかった。壁溝はカマドの推定部分を除いて全周する。

出土遺物（第305図）

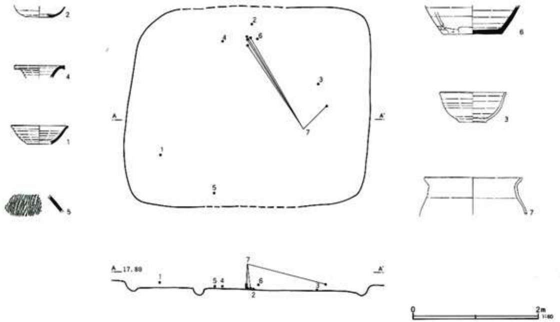
出土遺物には須恵器坏、広口壺、甕、酸化焔焼成埦、土師器甕がある。

１・２は須恵器坏で、２は１に比べて体部下半に膨らみをもつ。１はロクロ痕跡を強く残している。１は末野産と考えられるが、２は不明である。３は酸化焔焼成の埦である。淡橙褐色で、ロクロを用いて成形されているが、体部の張りが強く、底径がやや小さい。４は須恵器長頸瓶の口縁部の破片である。５は須恵器甕の胴部上半の破片で、外面は平行叩きである。６は須恵器広口壺の破片で、底部付近は横方向のヘラケズリが入る。７は土師器甕で、「コ」の字口縁の形態が崩れ始めている。

第305図　第87号住居跡出土遺物



第306図　第87号住居跡遺物分布図



第87号住居跡出土遺物観察表（第305図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.2)	3.9	(5.5)	BKL	C	黄橙色	30	
2	埦			(6.0)	KL	A	灰色	10	
3	埦	(14.4)	6.3	(5.8)	CKL	C	浅黄橙色	30	
4	長頸瓶	(10.8)			CKL	A	暗赤褐色	10	口縁部釉
5	甕				BDKL	A	青灰色	10	
6	甕			(12.6)	BKL	A	赤褐色	10	体部下端釉
7	甕	(21.0)			BKL	A	赤褐色	40	器面全体風化

第88・89号住居跡（第307～309図）

調査区の中央北側、W－7・8グリッドに位置している。SJ105の東、約1.5mに隣接し、SJ88が89を切り込むように構築されている。SJ88・89の北西隅は、調査区外になるため、89の壁溝はすべてを確認することはできなかった。

SJ88の平面形態は不整長方形で、規模は長辺4.43m、短辺3.50m、深さ0.30mである。主軸方向はN－127°－Sである。SJ89は南辺は88との重複によって不明瞭であるが、残存する長辺は3.58m、短辺3.30m、深さ0.27mである。主軸方向はN－96°－Sである。

SJ88の覆土はローム粒子と炭化物を含む暗褐色土で構成されるが、カマド付近では炭化物の量が多くみられた。床面はほぼ平坦であるが、中央部などに凹凸もみられた。

カマドは東辺の南寄りに1基検出された。壁を約1.5m掘り込んで構築されており、焚口から長さは約2.3mである。袖は既になく、断面の観察から側壁の崩落も観察された。燃焼面は中心部がピット状になっており、床面からは20cm程の深さがある。燃焼面の奥壁から煙道にかけては急角度で立ち上がる。燃焼面付近の壁や底面の被熱は全体に強く、赤褐色化していた。貯蔵穴はカマドの南側角で検出された。形態は直径約40cm、深さ14cmの円形で、覆土中には焼土が少量含まれていた。

壁溝はカマドと貯蔵穴を除いて全周し、南側がやや深い。また、南辺寄りの床面からは長径1.04m、短径0.87m、深さ0.20mの土壙SK1が検出された。覆土は焼土粒子を含む黒褐色土で構成されるが、炭化物やスラグなどは検出されなかった。また、ピットは貯蔵穴の他に1基検出されたが、カマドの焚口付近に位置しており、主柱穴とは判断しなかった。

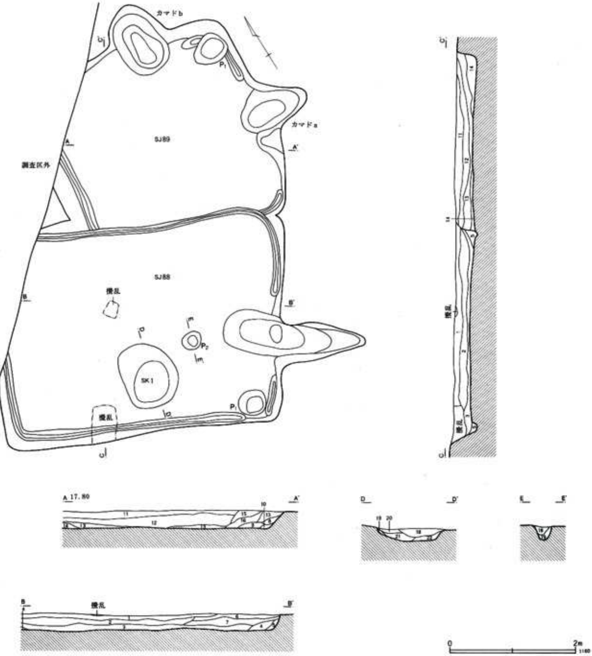
出土遺物（第310図）

出土遺物には、須恵器坏、蓋、高台付埦、甕、土師器甕、紡錘車がある。遺物の多くはカマド周辺から出土したものである。1～6は須恵器坏で、形態や大きさが類似している。直径約12cm、底径約6cm、器高4cm弱で、体部下半が膨らみ、体部下半から底部にかけて厚手のつくりである。7は須恵器蓋、8は須恵器甕の小破片である。1～8はいずれも南比企産である。9は高台付埦で、口縁部が端部で僅かに外反する。産地は不明。10・11は土師器甕の口縁部から胴部にかけての破片である。「コ」の字口縁は胴部に移行する付近から外側に開き始めている。12は滑石製の紡錘車で、部分的に欠落しているが、全面にわたって丁寧に研かれている。

SJ89の覆土はローム粒子を少量含む暗褐色土で構成され、床面付近では炭化物と焼土が混入していた。床面は平坦であるが、壁際に向かってやや傾斜している。床面には部分的に焼土が付着している箇所があり、焼土に混じってスラグの粒子も確認された。掘形をもつ炉跡や鉄製品は検出されなかったが、カマドを2基保有するなど小鍛冶に関連する住居の可能性も考えられる。

カマドは北辺（カマドb）と東辺（カマドa）に2基検出された。検出状況からカマドbが古く、カマドaが新しいことが確認された。カマドbは北辺中央やや東寄りに付設されていた。既に袖はなく、覆土の層位にも人為的に埋め戻されたような土層変化も観察された。

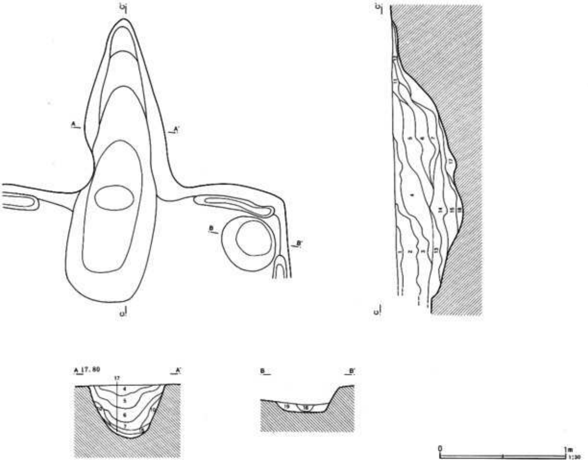
第307図　第88・89号住居跡



SJ88・89

1	暗褐色土	灰色粒子少量、ローム粒子多量含む。
2	暗褐色土	ローム粒子少量、炭化粒子、炭化物多量含む。
3	黒褐色土	ローム粒子、炭化粒子多量、ロームブロック少量含む。
4	褐色土	ローム粒子多量含む。軟質。
5	暗黄褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。
6	暗褐色土	ローム粒子少量、炭化粒子、炭化ブロック多量含む。
7	暗褐色土	ローム粒子、炭化粒子多量、ロームブロック少量含む。
8	褐色土	ローム粒子少量、焼土粒子多量含む。
9	暗褐色土	焼土粒子、炭化粒子多量含む。
10	褐色土	ローム粒子多量含む。
11	暗褐色土	ローム粒子少量含む。
12	暗褐色土	ローム粒子多量、炭化粒子少量含む。
13	褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
14	暗黄褐色土	ローム粒子多量含む。軟質。
15	暗褐色土	灰褐色粘土粒子多量、焼土粒子少量含む。
16	暗褐色土	灰褐色粘土粒子多量、ローム粒子少量含む。
17	褐色土	ローム粒子、焼土粒子、灰褐色粘土粒子ロームブロック少量含む。
18	黒褐色土	焼土粒子、ローム粒子微量含む。
19	明褐色土	ローム粒子多量含む。
20	暗褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。
21	暗褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
22	暗褐色土	ローム塊、ロームブロック少量含む。

第308図　第88号住居跡カマド



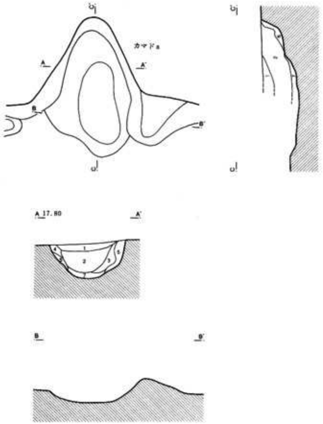
SJ88カマド		
1	暗褐色土	ローム粒子微量含む。
2	暗褐色土	ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量含む。
3	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子少量、炭化粒子多量含む。
4	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子多量含む。
5	黒褐色土	灰褐色粘土粒子多量、焼土粒子、炭化粒子少量含む。
6	赤褐色土	焼土粒子、焼土ブロック多量含む。
7	黄褐色土	ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。
8	暗赤褐色土	焼土粒子多量含む。
9	黄褐色土	ローム粒子多量含む。
10	黄褐色土	ローム塊。
11	赤褐色土	ローム粒子少量、焼土粒子、焼土ブロック多量含む。
12	黄褐色土	ローム粒子少量含む。
13	黒褐色土	焼土粒子、焼土ブロック少量、炭化粒子多量含む。
14	暗赤褐色土	焼土粒子、焼土ブロック多量、灰色粘土ブロック少量含む。
15	暗褐色土	焼土ブロック少量含む。
16	暗褐色土	灰色粒子、ローム粒子少量含む。
17	暗褐色土	ローム粒子多量含む。
18	暗褐色土	ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。
19	暗褐色土	ロームブロック少量含む。

燃焼面は床面から15cm弱掘り込められている。カマド内は土層に変化が生じているように、底面には凹凸が多くみられた。底面から側壁は被熱の痕跡が認められたが、奥壁付近は崩されたためか殆ど確認できなかった。

カマドaは東辺中央に付設され、袖は右側が一部残存していた。燃焼面は床面から5cm程掘り込まれ、カマドbに比べて底面は平坦である。覆土上層には焼土や灰白色粘土がブロック状に入り、天井付近の壁の崩落を窺わせる。また、側壁付近の土層には、ロームブロックが多く含まれ、崩落したものと考えられる。袖は灰褐色粘土とロームブロックで構築されていた。

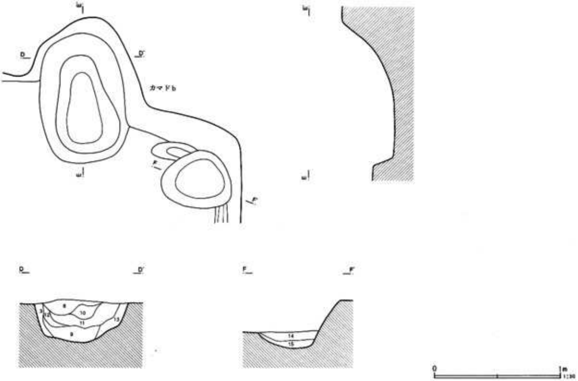
貯蔵穴（P1）は北東隅で検出された。長径55cm、短径45cm、深さ11cmの楕円形で、覆土はSJ88に類似する。壁溝の上に構築されているが、位置的にはカマドbに付属するのが一般的に多く、このようなカマド

第309図　第89号住居跡カマド



SＪ89カマドａ・ｂ

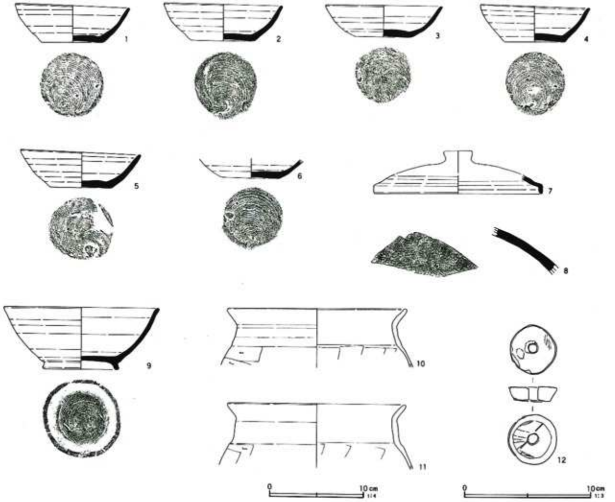
1	暗灰褐色土	灰褐色粘土粒子、焼土粒子、焼土ブロック多量含む。
2	褐色土	灰褐色粘土粒子微量、焼土粒子、炭化粒子少量含む。
3	褐色土	ローム粒子少量含む。
4	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子、灰褐色粘土粒子少量含む。
5	暗黄褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
6	暗黄褐色土	ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。
7	暗褐色土	ローム粒子多量、炭化粒子、焼土粒子少量含む。
8	暗褐色土	灰褐色粘土粒子多量、焼土粒子少量含む。
9	暗褐色土	焼土粒子多量、炭化粒子、灰褐色粘土粒子少量含む。
10	灰褐色土	灰褐色粘土粒子多量、焼土粒子少量含む。
11	暗褐色土	灰褐色粘土粒子、ローム粒子少量、焼土粒子多量含む。
12	暗褐色土	灰褐色粘土粒子微量、ローム粒子多量含む。
13	暗黄褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。
14	暗褐色土	焼土粒子、ローム粒子、炭化粒子少量含む。
15	黄褐色土	ロームブロック、ローム塊少量含む。



の左側に位置する例は少ない。壁溝は住居跡の北西部が調査区外となるため不確定な部分を残すが、基本的にはカマド周辺を除いて全周するものと考えられる。また、ＳＪ88と重複する部分の壁溝については、ＳＪ88側には検出されなかったため、ＳＪ88の壁溝構築時に重なったものと推定した。柱穴などの付属施設は検出されなかった。

出土遺物（第311図）

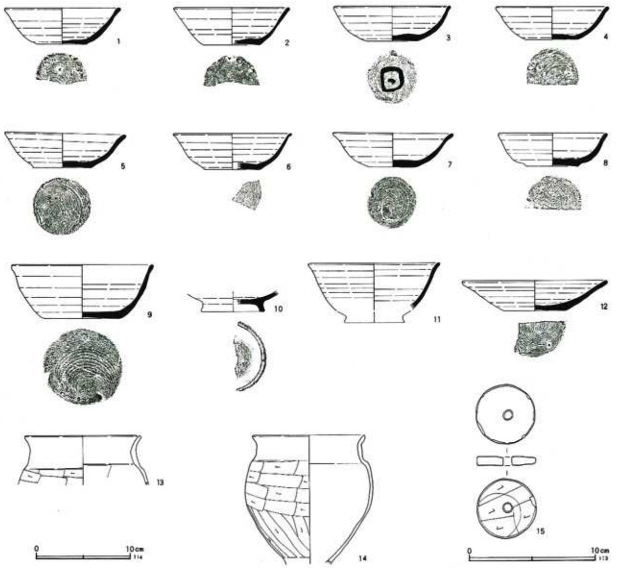
第310図　第88号住居跡出土遺物



第88号住居跡出土遺物観察表（第310図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	12.2	4.1	6.6	ACKL	C	褐灰色	90	
2	坏	12.5	3.9	6.7	CGKL	C	灰黄色	90	
3	坏	(12.4)	3.3	6.0	CGKL	B	灰色	50	外面に釉
4	坏	11.6	3.9	6.4	CDKL	A	オリーブ灰色	90	
5	坏	12.8	3.9	6.7	ACDKL	C	灰色	90	
6	坏			6.0	ACGKL	C	灰色	30	内面に炭化物付着
7	蓋	(18.0)			BCKL	B	灰色	10	
8	甕				BKL	A	暗緑灰色	10	
9	高台付埦	(16.5)	6.5	8.1	DGKL	C	灰白色	30	
10	甕	(19.0)			HKL	A	赤褐色	20	
11	甕	(19.0)			HK	A	暗赤褐色	15	
12	紡錘車	長径3.90×短径3.75×孔径0.9×厚さ1.0cm、重量22.92ｇ							

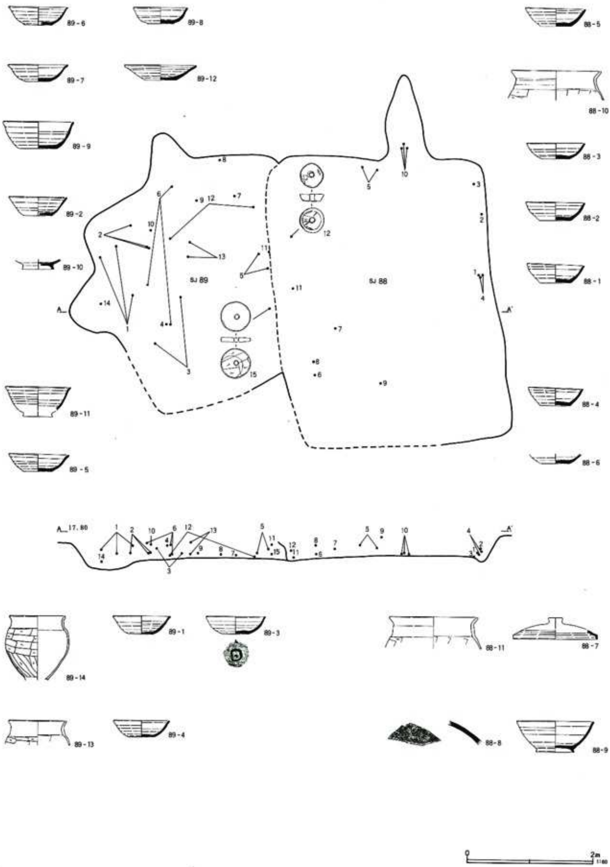
第311図　第89号住居跡出土遺物



第89号住居跡出土遺物観察表（第311図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.3)	3.8	(5.2)	CKL	A	灰色	50	
2	坏	(12.4)	3.9	(6.0)	CKL	C	灰白色	20	内外面にうすく炭化物付着
3	坏	(12.4)	3.7	5.2	CDKL	A	オリーブ灰色	50	底部に「日」の墨書
4	坏	(12.0)	3.5	5.6	ACGKL	A	オリーブ灰色	50	
5	坏	12.8	3.8	6.2	CKL	A	灰白色	90	火だすき痕
6	坏	(12.6)	3.8	(6.0)	ABCKL	A	灰色	20	
7	坏	12.0	3.6	5.3	BKL	C	オリーブ灰色	100	底部に籾による圧迫痕　外面にうすく付着物
8	坏	(11.6)	3.4	(5.6)	BCKL	A	赤褐色	40	口縁上に釉
9	埦	(15.0)	5.7	8.0	CDKL	C	淡黄色	60	
10	高台付埦			(6.8)	ABDKL	C	黒褐色	10	
11	高台付埦	(14.0)			IKL	C	明赤褐色	10	
12	皿	(15.5)	3.2	(6.7)	CKL	A	赤褐色	20	器面に鉄分の付着　内面に重ね焼きの痕跡
13	甕	(12.4)			BK	A	淡暗赤褐色	40	
14	台付甕	12.0			EHKL	A	橙褐色	90	
15	紡錘車	長径4.7×短径4.7cm			CKL	A		100	孔径0.6×厚さ0.7cm、重量20.2ｇ　須恵坏底部転用

第312図　第88・89号住居跡遺物分布図



出土遺物には須恵器坏、埦、高台付埦、皿、土師器台付甕、紡錘車がある。遺物はカマドa周辺及び覆土中を中心に出土している。1～8は須恵器坏で、口径約12cm、底径約6cm、器高約3.5cmとＳＪ88出土遺物と大きさは殆ど変わらないが、形態的には体部が直線的に開くタイプと体部下半に膨らみをもち、口縁部端部で外反するタイプの2種類に分けることができる。また、厚みも一定ではなく、ばらつきがある。底部の調整は回転糸切りで、3の底部中央には、「日」の文字が墨書されている。生産地は6・8以外は南比企産である。

9は須恵器埦で、体部下半がやや厚手で、ロクロ痕跡を明瞭に残す。南比企産。10・11は須恵器高台付埦の破片で、末野産である。12は須恵器皿で、推定口径15.5cmとやや大振である。13・14は土師器台付甕で、口縁部はともに「コ」の字口縁であるが、13は口縁部から胴部へ移行する部分に崩れがみられる。15は須恵器坏を転用した紡錘車である。中央に直径約6mmの孔をあけ、外周は砥石などで研磨されている。坏の底部は手持ちヘラケズリである。

2つの住居跡の年代は、出土遺物からともに9世紀後半頃と考えられる。

第90号住居跡（第314図）

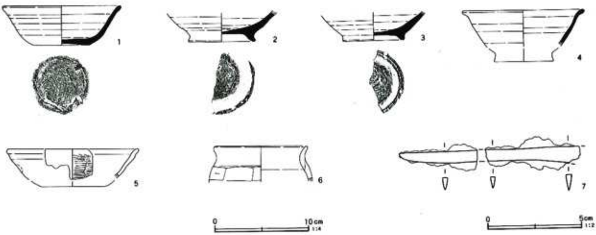
調査区の中央南側、Ｐ－13グリッドに位置し、南西部を撹乱と重複している。平面形態は長方形で、規模は長辺3.73m、短辺2.42m、深さ0.20mである。主軸方向はＮ－41°－Ｅである。

住居跡の覆土は南西部を中心に撹乱が入るが、基本的にはロームブロックを少量含む暗褐色土で、撹乱の入る部分を除いては土層に大きな変化はみられなかった。焼土や炭化物は主にカマド周辺だけに観察された。床面は平坦で、貼り床は確認されなかった。

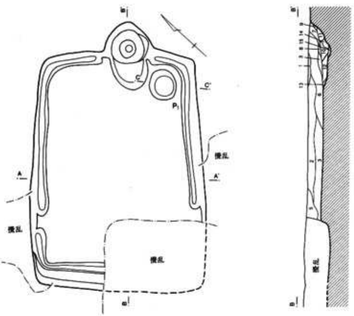
カマドは東辺中央に1基検出された。袖は既になかったが、断面には構築材とみられる灰色粘土粒子がみられた。燃焼面の掘形は、床面から約5cm掘り込まれ、中央に直径約10cmのピットが検出された。ピットの覆土はロームブロックが主体で、焼土などは殆ど含まれず、支脚などが置かれていた可能性も考えられる。燃焼面は床面とほぼ同一レヴェルで、底面から側壁にかけては被熱によって赤褐色化していた。

貯蔵穴はカマドの右側、南東隅に検出された。平面形態は円形で、直径約45cm、深さ16cmである。覆土下層には灰色粘土粒子が多く含まれていた。この他にピットなどは検出されなかった。また、壁溝はカマドと長辺の一部を除いて全周する。

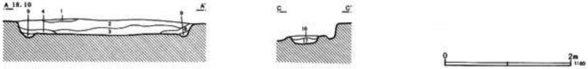
第313図　第90号住居跡出土遺物

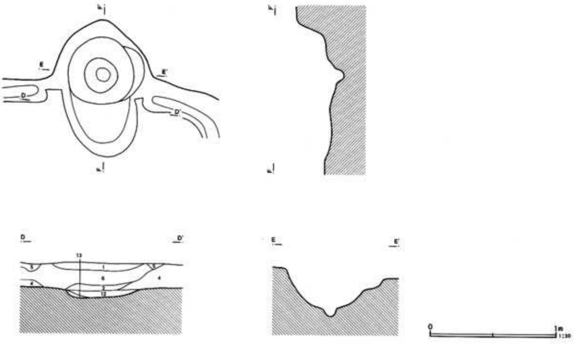


第314図　第90号住居跡・カマド



SJ90
1　攪乱。
2　暗褐色土　　ロームブロック微量含む。
3　暗褐色土　　ローム粒子、ロームブロック、黒褐色ブロック少量含む。
4　暗黄褐色土　ローム粒子、ロームブロック少量含む。
5　暗褐色土　　ローム粒子少量含む。
6　暗褐色土　　ローム粒子多量、焼土粒子、灰色粘土粒子、ロームブロック少量含む。
7　暗灰褐色土　灰色粒子、焼土粒子多量、灰色ブロック少量含む。
8　暗黄褐色土　ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
9　暗褐色土　　ロームブロック少量含む。
10　暗褐色土　焼土粒子、焼土ブロック多量含む。
11　明褐色土　焼土粒子微量、黒色粒子、白色粘土粒子多量含む。
12　暗褐色土　焼土粒子、ロームブロック多量、炭化物少量含む。
13　明褐色土　ローム粒子少量含む。
14　暗褐色土　焼土粒子、焼土ブロック少量含む。
15　暗褐色土　ロームブロック多量含む。
16　暗褐色土　ローム粒子少量含む。
17　灰白色土　灰色粒子多量含む。



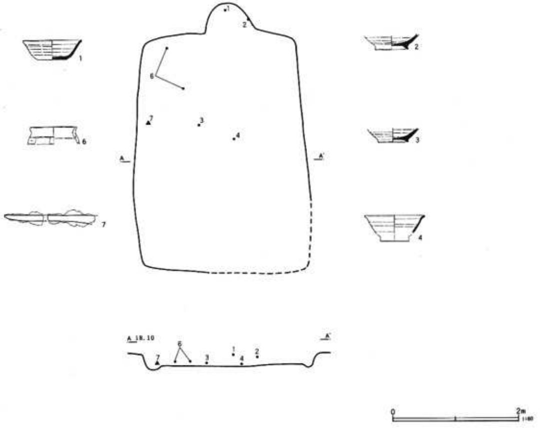


出土遺物（第313図）

出土遺物には須恵器坏、高台付埦、土師器坏、台付甕、刀子がある。遺物はカマド内に多く、底面ではなく壁際から出土している。1は須恵器坏で、口縁部先端が僅かに外反する。南比企産で、底部は回転糸切りである。2～4は、須恵器高台付埦の底部付近と口縁部の破片である。いずれも末野産で、底部の中心部は体部に比べて薄手なつくりになっている。5は土師器坏の口縁部小破片である。外面は口縁部先端で小さく屈曲し、内面には横方向にミガキが入る。6は土師器小型甕の口縁部付近の破片である。7は鉄製刀子の破片で基部と身の一部を欠く。

住居跡の年代は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

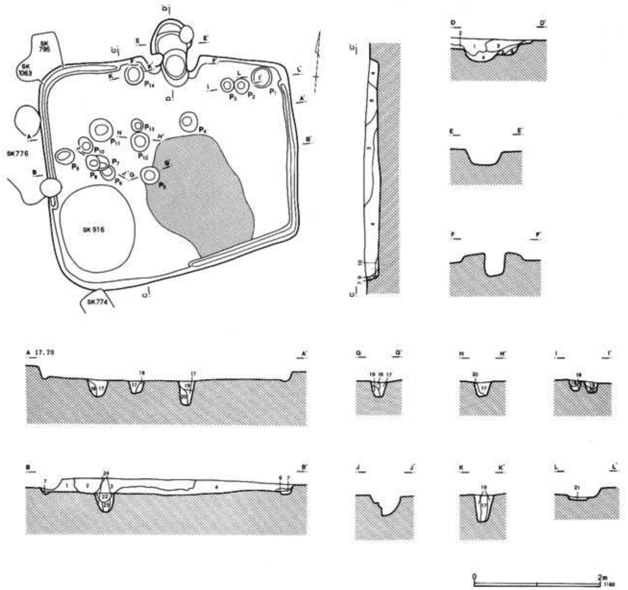
第315図　第90号住居跡遺物分布図



第90号住居跡出土遺物観察表（第313図）

番号	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　　考
1	坏	12.6	4.2	6.0	ADGKL	C	灰黄色	60	
2	高台付埦			7.2	BFKL	C	灰白色	10	
3	高台付埦			6.6	BGKL	A	暗青灰色	10	
4	高台付埦	(13.0)			ADEIKL	C	灰黄色	10	
5	坏	(14.0)			BK	A	褐色	10	土師器
6	甕	(10.0)			K	B	淡茶褐色	40	口縁部炭化物付着
7	刀子	長さ(9.1)×身幅0.9×棟幅0.3cm、重量8.46ｇ							

第316図　第91号住居跡



S J 9 1

1	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック、焼土ブロック少量含む。
3	暗褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
4	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック、焼土ブロック多量含む。
5	暗褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。
6	明褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。
7	暗黄褐色土	ローム粒子多量含む。
8	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子、焼土ブロック、ロームブロック少量含む。
9	明褐色土	ローム粒子少量含む。
10	明褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック微量含む。
11	暗褐色土	焼土粒子多量、ローム粒子、焼土ブロック少量含む。
12	暗褐色土	焼土粒子、白色粒子少量、ローム粒子、黒褐色粒子多量含む。
13	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子、白色粒子、焼土ブロック多量含む。
14	暗褐色土	焼土粒子多量、ロームブロック少量含む。
15	暗褐色土	焼土粒子、ロームブロック少量、黒褐色粒子多量含む。
16	暗黄褐色土	ローム粒子多量含む。
17	暗褐色土	ローム粒子微量、ロームブロック少量含む。
18	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。
19	暗褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。
20	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量含む。
21	暗褐色土	ロームブロック多量含む。
22	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子少量含む。
23	暗褐色土	ローム粒子多量含む。
24	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。

第91号住居跡（第316図）

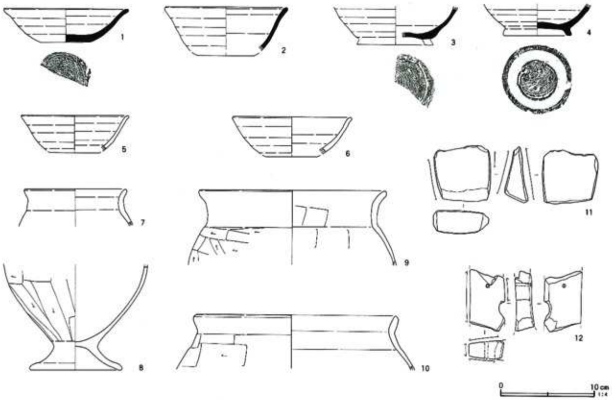
調査区の中央北寄りのW－10グリッドに位置している。住居跡は西側を後世の土壙ＳＫ916・975と重複するため、西辺の約半分が壊されている。平面形態は

不整長方形で、東辺が極端に短い。規模は長辺4.00m、短辺2.80m、深さ0.20mである。主軸方向はN－11°－Wである。

住居跡の覆土は、焼土ブロックを含む暗褐色土で構成されるが、焼土はカマドの底面を除いては住居の覆土中に多く分散しており、人為的な土層の変化が予想される。床面は中央部がやや窪んでいるが、ほぼ平坦である。中央部から南辺にかけては、長さ1.80m、幅1.65mにわたって焼土と炭化物が床面で検出された。焼土を取り除くと、掘り込みや被熱した箇所もなく、スラグなども検出されなかったため、炉跡などではなく、二次的に廃棄されたものと推定した。

カマドは、北辺中央を約50cm掘り込んで付設されていた。袖は左右とも一部残存し、灰褐色粘土とロームブロックで構築されていた。側壁は攪乱によって左右に広がっている（第316図）が、本来は内側の線がカマドの側壁の位置と推定される。底面は平坦で、床面から約10cmの掘り込みがあり、奥壁から煙道にかけては

第317図　第91号住居跡出土遺物



第91号住居跡出土遺物観察表（第317図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(13.4)	3.6	5.6	BK	A	青灰色	30	
2	坏	(13.2)			BK	C	灰色	20	
3	高台付塊				BK	A	灰色	30	高台部剥離
4	高台付塊			7.4	BK	A	灰色	50	鉄分
5	坏	(11.6)			BCK	A	赤褐色	20	酸化焔焼成
6	坏	(12.8)			BCK	A	赤褐色	20	〃
7	台付甕	(11.0)			HK	A	黒褐色	10	
8	台付甕			(10.0)	KL	A	暗赤褐色	80	
9	甕	(20.0)			GHK	A	赤褐色	30	
10	甕	(22.0)			GHK	A	赤褐色	10	
11	砥石	長さ(5.9)×幅5.9×厚さ2.5cm、重量82.5g							
12	砥石	長さ(5.5)×幅3.7×厚さ2.1cm、重量56.2g							提砥石か

5cm余りの段差をもって立ち上がる。奥壁付近からは台付甕の破片が出土した。

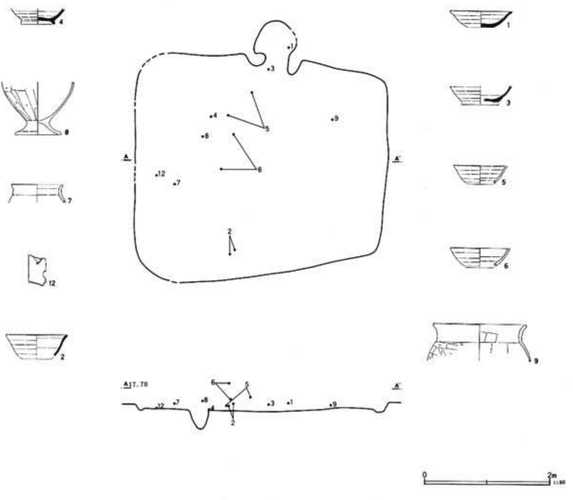
ピットは14基検出されたが、上層には攪乱もあったため、一部は後世に帰属するものと考えられる。また、P1・2については、位置や大きさなどから貯蔵穴の可能性が考えられる。壁溝は南東隅と北東隅で検出された。

出土遺物（第317図）

出土遺物には須恵器坏、高台付埦、酸化焰焼成坏、土師器台付甕、甕、砥石がある。遺物はカマド内、床面を中心に出土したが、一部覆土上層からも出土している。1・2は須恵器坏であるが、2は高台付埦の可能性も考えられる。口縁部先端で僅かに外反する。底部は回転糸切りである。3・4は須恵器高台付埦の底部～体部下半の破片である。5・6は酸化焰焼成の坏である。ロクロは使用しているが、意識的に赤褐色又は橙褐色にしたもので、明らかに須恵器で結果的に酸化焰焼成のように橙褐色化したものとは異なっている。7・8は土師器台付甕である。8はやや大振りで、カマド内より出土した。9・10は土師器甕の口縁部破片である。9は「コ」の字口縁であるが、口縁部先端は面取り風になっており、丸味を欠いている。10は口縁部が短く、胴部は大きく「ハ」の字に開くものである。11・12は砥石の破損品である。12は中央に孔を穿ち、紐を通すようにしている。

住居跡の年代は、出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

第318図　第91号住居跡遺物分布図

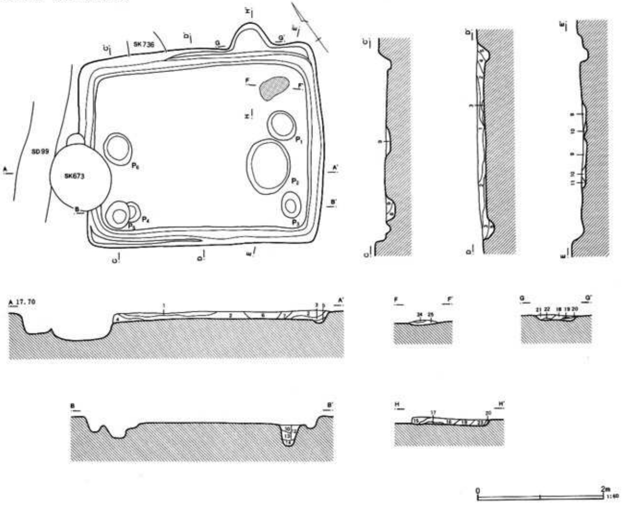


第92号住居跡（第319図）

調査区中央、北寄りのV－10グリッドに位置している。ＳＪ91の南、約５ｍに隣接している。北辺をＳＤ736、西辺をＳＫ673にといずれも後世の溝や土壙と一部を重複している。平面形態は長方形で、西辺がやや短い。規模は長辺3.78m、短辺3.07m、深さ0.14mである。主軸方向はＮ－37°－Ｅである。

覆土はローム粒子を少量含む暗褐色土で構成され、層位には大きな変化は見られなかった。床面はほぼ平坦で、東辺のピットの周囲はやや窪んでいる。また、カマドの手前には長さ約50cm、幅約30cmの楕円形の範囲に焼土が堆積していた。焼土はやや浮いた状態に

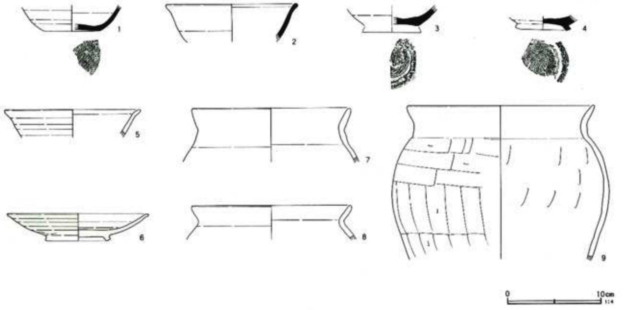
第319図　第92号住居跡



ＳＪ92

1	灰褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック微量含む。
2	暗褐色土	ローム粒子少量、焼土粒子、炭化物微量含む。
3	明褐色土	ローム粒子多量含む。
4	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック微量含む。
5	暗黄褐色土	ローム粒子多量含む。
6	暗褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。
7	暗褐色土	ローム粒子少量含む。
8	明褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
9	明褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。
10	明褐色土	ロームブロック多量含む。
11	暗褐色土	ローム粒子少量含む。
12	暗褐色土	ロームブロック多量含む。
13	暗褐色土	ロームブロック少量含む。
14	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。
15	暗褐色土	灰色粒子、ローム粒子少量含む。
16	暗褐色土	灰色ブロック多量含む。
17	暗褐色土	ロームブロック多量含む。
18	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子、ロームブロック少量含む。
19	赤褐色土	焼土ブロック多量含む。
20	暗黄褐色土	ロームブロック少量含む。
21	明褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック微量含む。
22	黄褐色土	ローム塊多量含む。
23	暗褐色土	ローム粒子少量、焼土粒子多量含む。
24	赤褐色土	焼土粒子、焼土ブロック多量、ロームブロック少量含む。
25	暗黄褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。

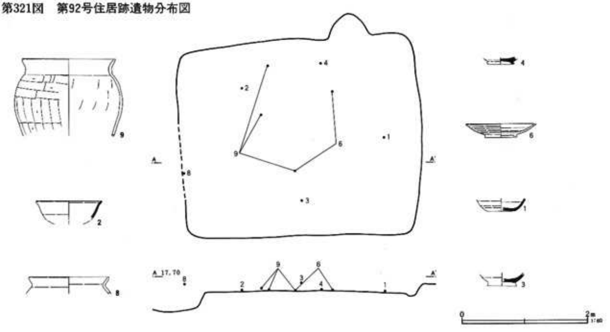
第320図　第92号住居跡出土遺物



第92号住居跡出土遺物観察表（第320図）

番号	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	坏			(6.0)	BCK	A	淡青灰色	10	
2	坏	(14.0)			BK	A	暗青灰色	20	
3	高台付埦				BK	C	暗灰色	30	
4	高台付埦			6.0	KL	A	淡暗赤褐色	40	
5	坏	(14.4)			KL	A	淡赤褐色	20	酸化焔焼成
6	高台付皿	(15.0)	2.9	7.1	BK	A	暗灰緑色	60	灰釉　東遠江産
7	甕	(17.0)			BK	A	淡橙褐色	10	
8	甕	(17.0)			BK	A	暗赤褐色	10	
9	甕	20.0			BEG	A	淡黒褐色	50	

第321図　第92号住居跡遺物分布図



あったが、掘形は床面より数cmレンズ状に掘り込んでいる。被熱部分は確認できたが、スラグなどは検出されなかった。

カマドは北辺東寄りに1基検出された。北辺を約30cm掘り込んで構築されているが、袖は検出されなかった。底面は床面と同一レヴェルで、中央部だけ被熱で、赤変していた。

壁溝は全周し、カマドの燃焼面まで及んでいる。壁溝はカマドの中までは入ることはなく、入る場合はカマドを作り代える時である。住居跡の西辺は土壙に壊されて原形を留めていないが、周囲のピットも貯蔵穴とみることもでき、カマドをこの部分に再構築した可能性も考えられる。

ピットは6基検出された。P1・2・6は貯蔵穴状で、他のピットに比べて大型で浅い。

出土遺物（第320図）

出土遺物には須恵器坏、高台付埦、酸化焔焼成坏、灰釉皿、土師器甕がある。遺物はカマド内及び床面から出土している。1・2は須恵器坏の破片で、底部は回転糸切りである。3・4は須恵器高台付埦の底部破片である。1～4は、いずれも末野産と考えられる。5は酸化焔焼成坏の口縁部破片である。ロクロ痕跡が明瞭で、橙褐色である。6は灰釉皿で、ハケ塗りである。東遠江産と考えられる。7～9は土師器甕で、7・8は口縁部が短く、「く」の字口縁である。9は口縁部が短く、器形も全体が丸みを強くしているが、また「コ」の字口縁の名残がみられる。

住居跡の年代は、出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

第93号住居跡（第322図）

調査区の中央北側、V－11グリッドに位置する。住居跡は、北側約半分を旧農事試験場の造成に伴って、削られている。平面形態は長方形で、規模は長辺5.54m、短辺3.80m(推定値)、深さ0.42mである。主軸方向はN－50°－Eである。

覆土は焼土粒子を多量含む暗褐色土で構成され、大きな土層の変化はみられなかったが、壁際では壁の崩落に伴う堆積が確認された。床面は平坦であるが、中央部が僅かに窪んでいる。床面には所々に焼土や炭化物の集中する箇所が検出された。

ピットは3基検出された。P3は柱痕跡が認められたが、他の2基はいずれも浅い。P1については焼土や被熱が確認され、炉跡の可能性も考えられる。

壁溝は残存する部分では全周し、南側がやや浅くなっている。

出土遺物（第323図）

出土遺物には、須恵器坏、高台付埦、長頸瓶、酸化焔焼成皿、土師器甕、紡錘車、穂摘み具、鎌、刀子がある。

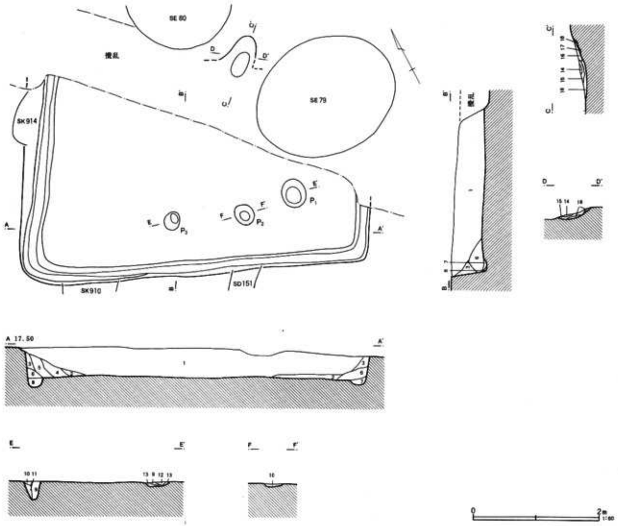
1～9は須恵器坏で、口縁部は僅かに外反し、浅身と深身がある。底部は回転糸切りである。10・11は高台付埦の底部周辺の破片で、高台径には大小がある。12・13は酸化焔焼成の皿と考えられる。小破片であるが、明らかに須恵器の赤褐色した坏類とは異なる胎土である。14は須恵器長頸瓶の底部付近の破片である。底部はヘラケズリである。

15～19は土師器甕の口縁部破片である。いずれも「コ」の字口縁であるが、15・16は「く」の字に近い形態を示している。20は須恵器甕胴部破片を転用した紡錘車である。周囲は砥石などで丁寧に磨かれている。

21～24は鉄製品である。22は穂摘み具で、ＳＪ84の出土例に類似している。2箇所に方形の目釘孔をもち、背には木質とみられる繊維が付着していた。23は刀子形鉄製品である。刃部は刃がなく、模造品または未製品の可能性が考えられる。24は錆の進行が進んでいるが、鎌の破片と考えられる。25は鉄刀または刀子の刃部破片である。

住居跡の年代は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

第322図　第93号住居跡



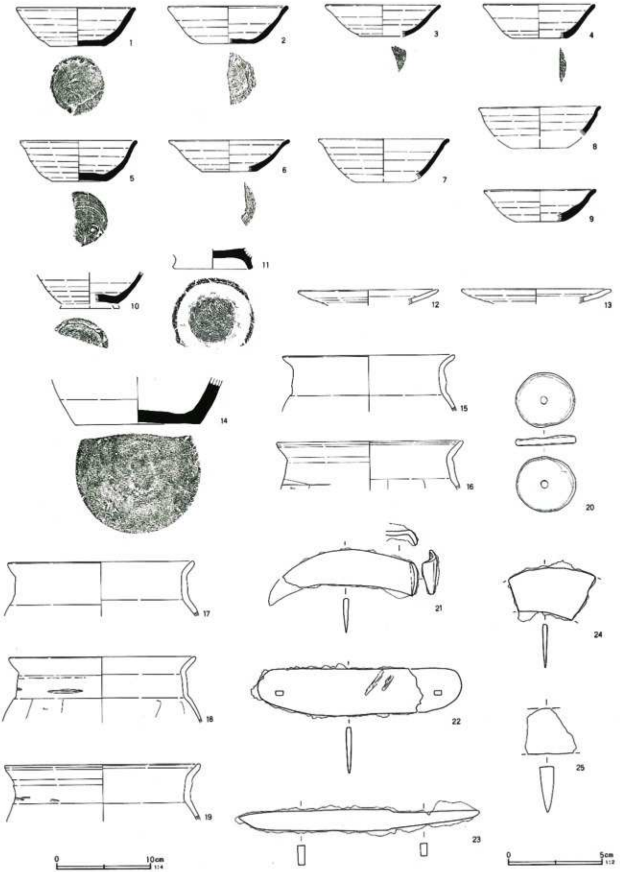
SJ93

1	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子多量、焼土ブロック、ロームブロック、炭化物少量含む。
2	暗褐色土	焼土粒子、炭化物少量、ロームブロック多量含む。
3	明褐色土	ローム粒子多量含む。
4	暗褐色土	ローム粒子少量含む。
5	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量含む。
6	暗褐色土	ローム粒子微量含む。
7	暗褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック、炭化物少量含む。
8	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量含む。
9	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子少量含む。
10	暗褐色土	ローム粒子少量含む。
11	暗褐色土	ローム粒子微量含む。
12	暗褐色土	ローム粒子少量、炭化物多量含む。
13	暗褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
14	暗褐色土	ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。
15	暗赤褐色土	ローム粒子、焼土粒子、焼土ブロック少量含む。
16	暗褐色土	焼土粒子少量含む。
17	暗黄褐色土	ロームブロック少量含む。
18	暗赤褐色土	ローム粒子、焼土粒子少量含む。

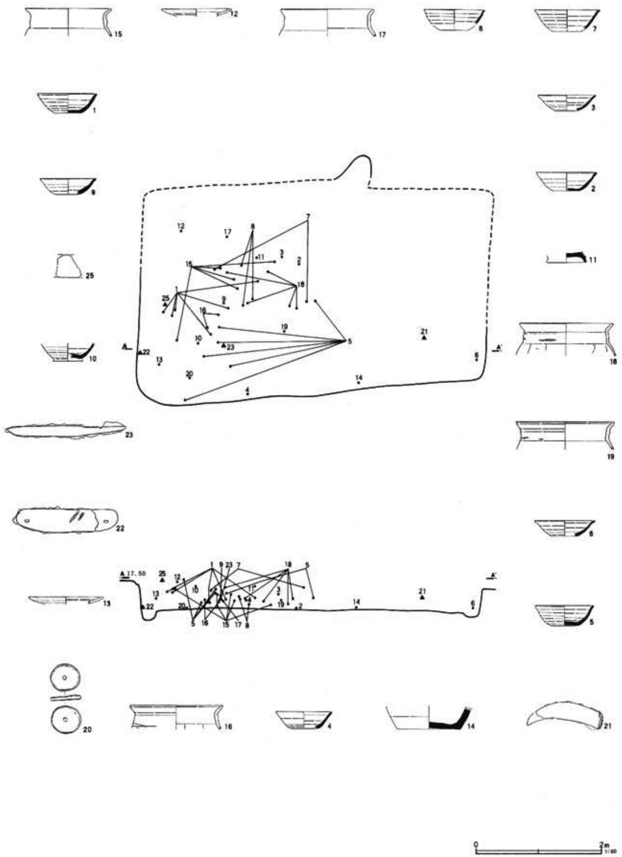
第93号住居跡出土遺物観察表（第323図）

番号	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　考
1	坏	12.7	4.2	6.0	BKL	A	暗青灰色	100	体部に重ね焼きの破片付着
2	坏	(13.0)	4.0	(5.6)	CK	A	灰色	30	
3	坏	(12.4)	3.3	(4.8)	BCK	A	淡赤褐色	20	
4	坏	(12.0)	3.6	(5.6)	BCK	A	灰色	30	
5	坏	12.5	4.3	5.9	BCKL	C	暗灰褐色	60	
6	坏	(13.0)	3.3	(5.8)	BCK	A	暗灰褐色	20	
7	坏	(14.0)			KL	A	灰色	10	

第323図　第93号住居跡出土遺物



第324図　第93号住居跡遺物分布図



第93号住居跡出土遺物観察表（第323図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
8	坏	(13.0)			BCK	A	淡橙褐色	10	
9	坏	(12.0)	3.3	(5.2)	CKL	A	暗灰色	10	
10	高台付塊			(6.4)	BKL	A	青灰色	30	
11	高台付塊			8.4	BK	A	黒褐色	80	
12	皿	(15.0)			BK	A	淡赤褐色	10	酸化焔焼成
13	皿	(16.0)			K	A	橙褐色	10	赤彩の可能性　酸化焔焼成
14	甕			13.5	BCK	A	灰白色	60	
15	甕	(18.4)			HK	A	暗赤褐色	10	
16	甕	(20.0)			BHK	A	暗赤褐色	10	
17	甕	20.0			HK	A	暗赤褐色	10	
18	甕	(20.0)			BK	A	暗赤褐色	30	
19	甕	(21.0)			HK	A	淡橙褐色	20	
20	紡錘車	長径6.4×短径5.8×孔径0.8×厚さ0.7cm、重量36.6g							暗灰色　須恵器坏底部転用
21	鎌	長さ(7.15)×幅1.8×厚さ0.25cm、重量14.19g							ミニチュアか？
22	穂摘み具	長さ10.7×幅2.4×厚さ0.25cm、重量17.79g							
23	刀子	長さ12.8×身幅1.1×棟幅0.4cm、重量28.27g							刀子形鉄製品　茎幅0.65×厚さ0.4cm
24	鎌	長さ(4.6)×幅2.7×厚さ0.2cm、重量12.51g							鎌の破片
25	刀子	長さ2.7×身幅2.4×棟幅0.7cm、重量19.14g							刃部片

第94・95号住居跡（第325・326図）

調査区の中央北側、U－10グリッドに位置する。2軒の住居跡は、ＳＪ94をＳＪ95が切り込む形で重複している。平面形態はともに長方形で、ＳＪ94がやや大型である。規模はＳＪ94が長辺4.35m、短辺3.27m、深さ0.12m、ＳＪ95が長辺3.68m、短辺2.38m、深さ0.20mである。主軸方向はＳＪ94がN－49°－E、ＳＪ95がN－33°－Wである。

ＳＪ94はローム粒子、焼土粒子を少量含む覆土で構成され、一部攪乱が入るものの壁際などにも特に土層の変化は観察されなかった。床面は平坦で、検出されなかった。

カマドは東辺中央に1基付設され、住居に対して主軸が北方向にやや振れている。煙道付近は後世の溝ＳＤ151と重複するため、一部層位が変化していた。袖は左右とも一部残存していたが、焚口付近では崩れ、周辺には構築材の灰白色粘土ブロックを確認できた。

燃焼面は床面から約10cm掘り込まれ、底面は平坦で、奥壁付近まで被熱で赤変していた。また、底面奥では須恵器甕が出土した。

ピットは7基検出されたが、いずれも配置が不規則である。Ｐ1・4は壁溝と重なっており、あるいは後世に帰属する可能性も考えられる。壁溝はカマドの部分を除いて全周し、南側に緩やかに傾斜している。

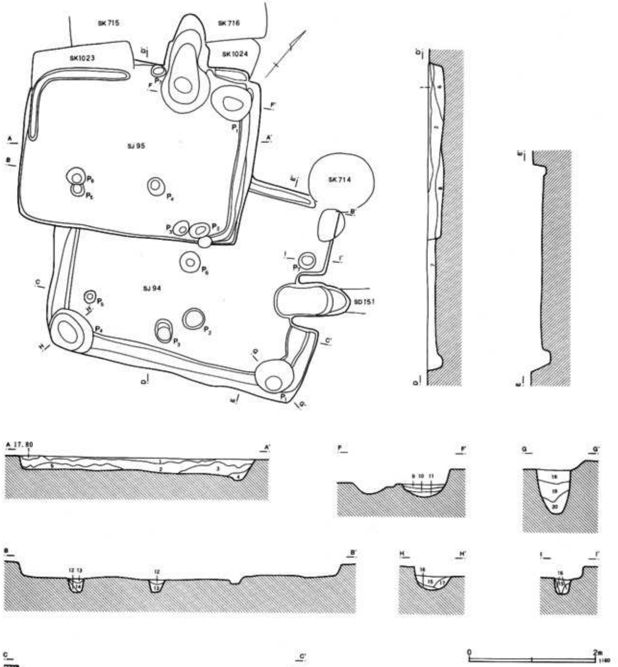
出土遺物（第327図）

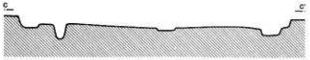
出土遺物には須恵器坏、高台付塊、甕、酸化焔焼成坏、灰釉塊、土師器甕、小皿がある。

1～3は須恵器坏の破片で、1は底部に判読できないが墨書がある。4～6は須恵器高台付塊で、口径約14cm、底径7cm弱、器高6cm前後である。6は厚手で、焼成温度が低い。破片が小さいため、長頸瓶の可能性も考えられる。7は長頸瓶、8は甕の破片とみられる。9は酸化焔焼成の坏で、厚手のつくりである。ロクロを使用し、橙褐色に焼き上がっている。底部は回転糸切りで、胎土は粒子が細かい。10は灰釉塊の破片で、灰釉はつけがけである。11は土師器小皿であるが、作りが丁寧で、後世の混入の可能性もある。12・13は土師器甕の破片で、12は口縁部が短く、大振りである。14は刀子の茎部破片で、先端も一部欠損している。15は鉄製の錐とみられるが、時期なども特定が難しい。基部は一部木質が残っていた。土製の支脚は脆く、実測が不可能であった。

ＳＪ95は北辺に後世の土壙と4基重複し、覆土上層には変化がみられた。覆土にはロームブロックを多く含む暗褐色土で構成され、人為的な埋め戻しなどが行なわれた可能性がある。床面は凹凸があり、特に中央

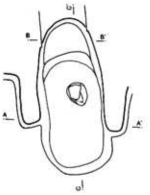
第325図　第94・95号住居跡

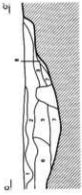




ＳＪ９４・９５
1　暗褐色土　ローム粒子、灰色ブロック、ロームブロック少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒子、ロームブロック多量含む。
3　暗褐色土　ローム粒子多量、焼土粒子微量、ロームブロック少量含む。
4　暗黄褐色土　ローム粒子、ロームブロック多量含む。粘性あり。
5　暗褐色土　ローム粒子、ロームブロック少量含む。
6　暗褐色土　ローム粒子、白色粘土粒子、ロームブロック多量、焼土粒子微量含む。
7　暗褐色土　灰褐色粒子、焼土粒子微量、ローム粒子少量含む。
8　明褐色土　ローム粒子、ロームブロック多量含む。
9　暗褐色土　ローム粒子多量、焼土ブロック少量含む。
10　明褐色土　ローム粒子多量、焼土粒子、ロームブロック少量含む。
11　暗褐色土　ローム粒子少量、焼土ブロック微量含む。
12　暗褐色土　ローム粒子、ロームブロック少量含む。
13　暗褐色土　ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。
14　暗褐色土　ローム粒子微量含む。
15　暗褐色土　ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。
16　明褐色土　ロームブロック少量含む。
17　暗褐色土　ローム粒子、焼土粒子少量含む。
18　暗褐色土　ローム粒子、ロームブロック多量、焼土粒子少量、焼土ブロック微量含む。
19　明褐色土　ローム粒子、ロームブロック少量含む。
20　明褐色土　ローム粒子、ロームブロック多量含む。

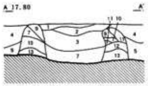
第326図　第94・95号住居跡カマド

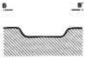


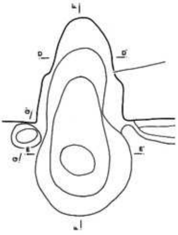


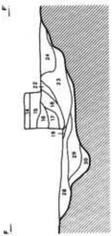
SＪ94カマド

1	灰褐色土	ローム粒子、灰色粘土粒子、ロームブロック少量含む。
2	暗褐色土	ローム粒子微量、焼土粒子多量含む。
3	暗褐色土	ローム粒子、白色粘土粒子少量、焼土粒子多量含む。
4	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子少量、白色粘土粒子多量含む。
5	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子微量含む。
6	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子少量含む。
7	明褐色土	ローム粒子少量含む。粘性あり。
8	明褐色土	ローム粒子微量、白色粘土粒子多量含む。
9	赤褐色土	ローム粒子、灰色粒子少量、焼土粒子、焼土ブロック多量含む。
10	灰褐色土	焼土粒子、灰色粒子、灰色ブロック微量含む。
11	暗褐色土	焼土粒子、灰色ブロック少量含む。
12	暗褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
13	黄褐色土	灰色ブロック少量含む。



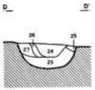


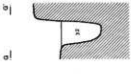


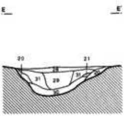


SＪ95カマド

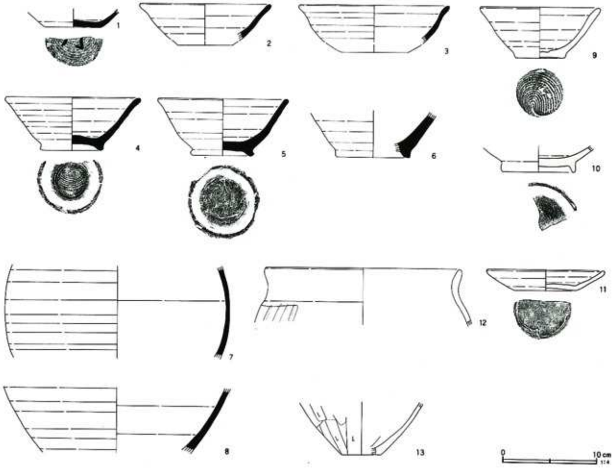
14	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子少量、ロームブロック多量含む。
15	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子微量、ロームブロック少量含む。
16	明褐色土	ローム粒子、ロームブロック微量、焼土粒子少量、白色粘土ブロック多量含む。
17	明褐色土	焼土粒子多量、焼土ブロック少量含む。
18	暗褐色土	白色粘土粒子、焼土粒子多量含む。
19	明褐色土	焼土粒子、白色粘土塊少量含む。
20	暗褐色土	ローム粒子、白色粘土粒子少量、焼土粒子微量含む。
21	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。
22	暗灰褐色土	白色粒子多量、焼土粒子少量含む。
23	暗褐色土	焼土粒子、白色粒子少量、ロームブロック多量含む。
24	暗褐色土	ローム粒子、焼土粒子、白色粒子少量、ロームブロック多量含む。
25	暗黄褐色土	焼土粒子微量、ローム粒子多量含む。
26	赤褐色土	焼土粒子、焼土ブロック多量含む。
27	暗褐色土	焼土粒子微量含む。
28	暗褐色土	焼土粒子、ロームブロック、白色ブロック少量含む。
29	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量、焼土粒子、白色粒子微量含む。
30	暗褐色土	ロームブロック少量含む。粘性あり。
31	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量、黒色粒子微量含む。
32	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量含む。

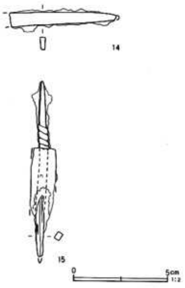






第327図　第94号住居跡出土遺物





部は著しい。中央部では焼土や炭化物がまとまって確認されたが、炉跡は検出されなかった。

カマドは北辺やや東寄りに付設され、煙道付近はＳK716と約半分が重なっている。カマドは北辺を約70cm掘り込んで構築されている。燃焼面の掘形は、手前側が床面から約20cmピット状に掘り込んだ後、ロームブロックなどで平坦面をつくりだしていた。底面は奥壁あたりまで被熱部分があり、赤変していた。袖は検出されなかったが、周辺の覆土中には白色粘土ブロックが多く確認された。

貯蔵穴（Ｐ１）はカマドの右側、隅部分で検出された。ＳＪ94のＰ１と同規模であるが、深さは10cm余りと浅く、断面の形態も異なっている。ピットはこの他に６基検出された。壁溝は南辺と西辺の一部を除いて全周する。

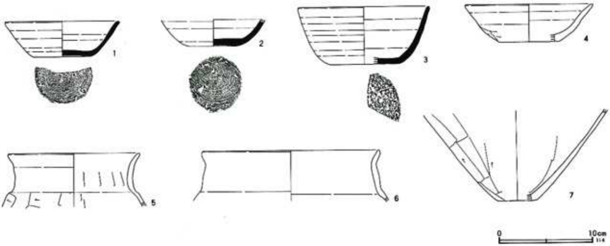
出土遺物（第328図）

出土遺物には、須恵器坏、埦、酸化焰焼成坏、土師器台付甕、甕がある。遺物は覆土中から出土したものが多く、一部ＳＪ94からの混入した可能性もある。

第94号住居跡出土遺物観察表（第327図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏			(6.0)	BCK	A	暗灰褐色	30	墨書
2	坏	(14.0)			BHK	A	灰褐色	20	
3	坏	(16.0)			K	A	淡褐色	10	鉄分付着
4	高台付埦	(14.4)	5.6	6.8	BK	C	暗灰褐色	50	
5	高台付埦	13.9	6.0	6.8	BK	C	暗灰褐色	60	
6	長頸瓶			(8.0)	HKL	C	淡赤褐色	20	
7	長頸瓶				BKL	A	淡灰褐色	30	
8	甕				KL	A	灰褐色	10	
9	坏	12.8	5.3	5.2	K	A	淡橙褐色	90	鉄分？付着　酸化焔焼成
10	高台付埦			(8.0)	K	A	淡灰色	20	灰釉
11	皿	12.5	2.2	(6.5)	BK	A	橙褐色	50	
12	甕	(21.0)			BK	A	黒褐色	10	
13	甕			4.0	GK	A	暗赤褐色	30	
14	刀子	長さ(5.8)×身幅0.7×厚さ0.25cm、重量4.91ｇ							茎部
15	錐	長さ(9.2)×幅1.3cm							

第328図　第95号住居跡出土遺物



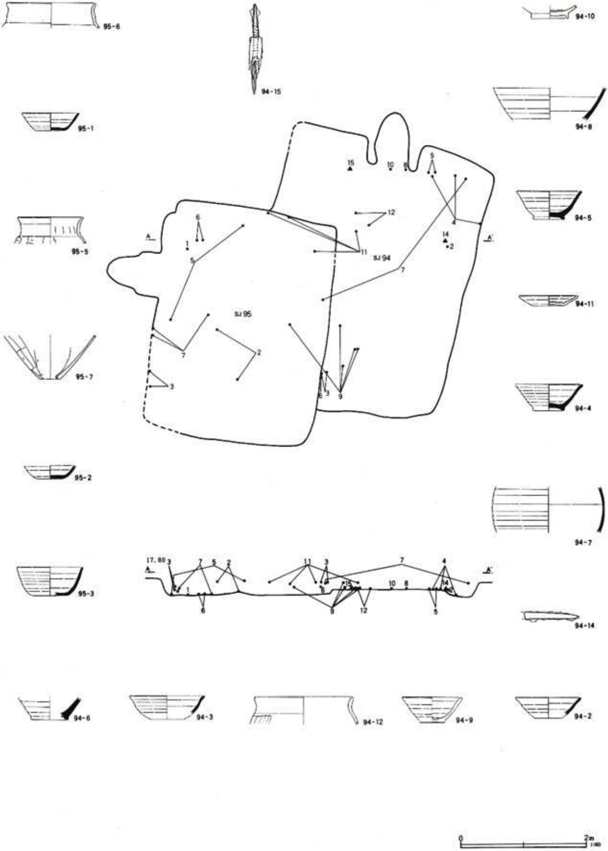
第95号住居跡出土遺物観察表（第328図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.4)	3.7	6.2	BCK	A	暗灰褐色	40	
2	坏			5.2	BCK	A	灰色	60	
3	埦	(14.0)	6.0	(7.2)	BK	C	淡灰色	20	
4	坏	(13.6)	4.0	(6.6)	K	A	橙褐色	20	酸化焔焼成
5	小型甕	(14.0)			KL	A	赤褐色	30	
6	甕	(19.0)			BK	A	暗赤褐色	10	
7	甕			(4.2)	BCK	A	暗赤褐色	20	

1・2は須恵器坏で、底部は回転糸切りである。3は須恵器埦で、口径（推定）は約14cmと小振りで、体部下半に丸みがある。1～3はいずれも南比企産である。4は酸化焔焼成の坏の破片で、体部下半と底部の調整はヘラケズリである。5は土師器台付甕の口縁部破片、6・7は土師器甕の口縁部と胴部下半の破片である。

住居跡の年代は、ＳＪ94・95とも時期的に大きな差はなく、ＳＪ95が94を切り込んで構築されているが、出土状況からは遺物の混入も想定される。9世紀後半

第329図　第94・95号住居跡出土遺物



と考えておきたい。

第96・104号住居跡（第330図）

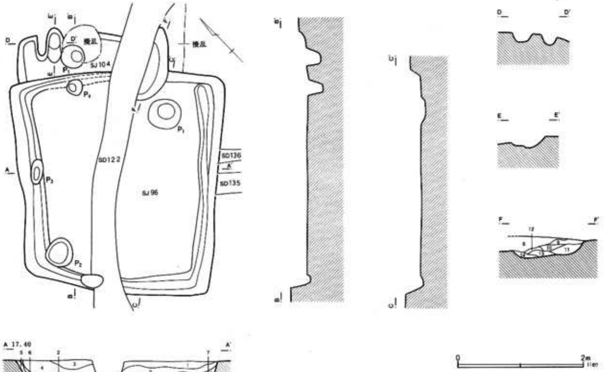
調査区の中央北側、X−10グリッドに位置する。住居跡の中央部で東西方向に入る後世の溝跡ＳＤ122と重複する。住居跡は、ＳＪ96がＳＪ104を切り込んで構築されている。ＳＪ96の平面形態は不整長方形で、西辺がやや短い。規模は長辺3.52m、短辺3.00m、深さ0.25mである。ＳＪ104の平面形態は、ＳＪ96の他にＳＤ122や攪乱と重なるために不明瞭である。深さは0.15mである。主軸方向はＳＪ96がN−62°−E、ＳＪ104がN−46°−Eである。

ＳＪ96の覆土はローム粒子を少量含む黒褐色土で構成されるが、ＳＤ122の南側と北側では層位に違いが観察された。北側上層にはカマドの構築に使用した灰白色粘土がブロック状に含まれていた。溝の構築に際して、カマドを壊していることから、部分的に混入したものと考えられる。床面は平坦である。

カマドは北東辺やや南寄りに付設されていた。ＳＤ122によって北側約半分が壊されている。残存する部分は掘形だけが検出され、底面から側壁にかけては被熱によって赤変した箇所が確認された。

ピットは４基検出された。Ｐ１は直径約50cm、深さ７cmの円形で、カマドの南西側に位置し、貯蔵穴とみられる。他の３基はいずれも壁溝に接するか、中に掘り込まれていた。壁溝はカマドを除いてほぼ全周するものと考えられる。

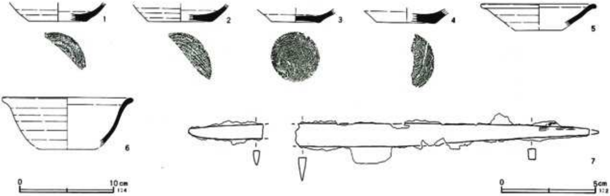
第330図　第96・104号住居跡



ＳＪ96
1　黒褐色土　　ローム粒子、炭化物微量含む。
2　黒褐色土　　ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
3　暗灰褐色土　白色粒子少量含む。
4　黒褐色土　　ローム粒子少量含む。
5　暗黄褐色土　ローム粒子微量含む。粘性あり。
6　暗褐色土　　黒褐色ブロック少量含む。
7　黒褐色土　　ロームブロック少量含む。

ＳＪ96カマド
8　黒褐色土　　ローム粒子、ロームブロック少量含む。
9　黒褐色土　　焼土粒子微量、灰褐色ブロック少量含む。
10　黒褐色土　　焼土粒子多量、焼土塊少量含む。
11　暗赤褐色土　ローム粒子、焼土粒子少量含む。
12　黒褐色土　　ローム粒子少量、黒色ブロック微量、炭化粒子多量含む。
13　赤褐色土　　ローム粒子少量、焼土粒子、焼土ブロック多量含む。
14　暗黄褐色土　ローム粒子多量、焼土粒子微量、ロームブロック少量含む。

第331図　第96号住居跡出土遺物



第96号住居跡出土遺物観察表（第331図）

番号	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　　　　考
1	坏			(6.2)	KL	C	暗灰色	20	
2	坏			(6.8)	BK	C	暗灰色	30	
3	坏			5.4	BKL	A	赤褐色	30	
4	坏			(6.4)	BK	A	淡橙褐色	30	内面黒色処理
5	坏	12.4			BKL	A	灰黒褐色	20	末野産
6	坏	(14.0)			BK	C	灰褐色	10	鉄分
7	刀子	長さ(21.8)×身幅1.2×棟幅0.4cm、重量26.24ｇ							

出土遺物（第331図）

出土遺物には須恵器坏、高台付埦、刀子がある。遺物は多くがＳＤ122の南側の床面から出土している。

１～６は須恵器坏の底部及び口縁部の破片である。末野産が多く、底部は回転糸切りである。５は皿、６は須恵器高台付埦の可能性もある。７は鉄製の刀子で、刃部の一部を欠く。錆や欠損が著しいが、部分的に木質が残っていた。

ＳＪ104は遺構確認面からの掘り込みが浅いため、カマド周辺だけの検出となった。覆土はローム粒子を含む暗褐色土であるが、カマド付近ばかりでなく、全体に大小の攪乱が入るため、元の覆土は僅かである。床面は攪乱などにより凹凸がある。

カマドは北東辺北寄りに１基検出された。袖は左側が僅かに残っていたが、右側は攪乱とピットにより殆ど残っていなかった。底面は床面と同一レヴェルで、被熱部分は確認されなかった。焼土はカマド周辺の覆土中にブロック状で観察されたが、まとまった形では検出されなかった。遺物は出土しなかった。

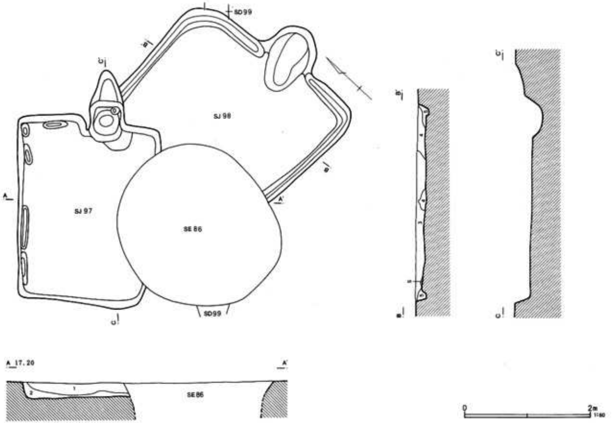
第97・98号住居跡（第332・333図）

調査区の中央北側、Ｘ－11・12グリッドに位置している。２軒の住居跡は、一部を後世の井戸跡ＳＥ86、溝跡ＳＤ99と重複している。住居跡の先後関係はＳＪ98をＳＪ97が切り込んで構築されている。

平面形態は、ともに長方形である。規模はＳＪ97が長辺2.96m、短辺2.27m、深さ0.22m、ＳＪ98は長辺2.30m（残存部分）、短辺3.02m、深さ0.15mである。カマドはともに短辺に付設されていた。主軸方向はＳＪ97がＮ－45°－Ｅ、ＳＪ98がＮ－77°－Ｅである。ＳＪ97・98とも覆土は、ローム粒子を多く含む黒褐色土で構成されている。ＳＪ98はＳＪ97と重なることもあり、所々土層に変化がみられた。床面はＳＪ98はやや凹凸があるが、ＳＪ97は平坦であった。

ＳＪ97は北東辺にカマドが１基検出された。カマドは中央やや東寄りに付設され、辺を約70cm掘り込んでいた。袖は左側が一部残存し、ローム塊と灰褐色粘土を主体に構築されていた。燃焼面は奥壁に向かって緩やかに傾斜し、底面はすり鉢状になっている。煙道は

第332図　第97・98号住居跡



ＳＪ97・98

1	黒褐色土	ローム粒子多量、炭化物微量、焼土粒子少量含む。
2	黒褐色土	ローム粒子多量、焼土粒子微量、ロームブロック少量含む。
3	黒褐色土	ローム粒子多量、焼土粒子微量含む。粘性あり。
4	黒褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量含む。粘性あり。
5	暗黄褐色土	ロームブロック少量含む。粘性あり。

約50cmあり、緩やかに立ち上がっている。また、煙道を含めた覆土上層では焼土がまとまって観察された。天井や側壁から崩落したものと考えられる。燃焼面の奥壁付近では、土製支脚が倒れかかった状態で出土した。

貯蔵穴やピットなどの付属施設は、検出されなかった。また、壁溝は北西辺を中心に部分的に確認されたが、いずれも浅く、全周する壁溝と同じ機能をもつものかは疑問である。

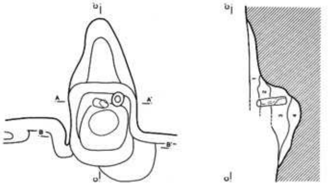
出土遺物（第333図）

出土遺物には須恵器坏、高台付埦、蓋、支脚、刀子がある。遺物の多くはカマド内及び覆土中から出土したものである。一部の遺物は周辺の住居から混入した可能性も考えられる。

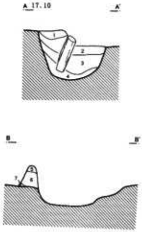
1・2は須恵器坏の口縁部と底部の破片である。ともに南比企産で、2の底部は回転糸切りである。3は須恵器高台付埦の底部破片である。末野産と考えられる。4は須恵器蓋の破片で、摘みを欠く。推定口径は約13cmで、体部にケズリはみられなかった。5は土製の支脚で、基部を欠く。風化が進んでいるが、縦方向のヘラケズリが確認された。6は刀子刃部の破片とみられる。

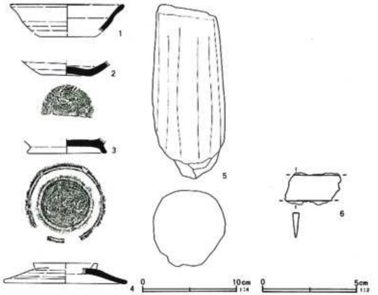
ＳＪ98のカマドは、東辺中央に1基検出された。袖は既になく、燃焼面の掘形が検出された。掘形は床面から約10cm掘り込まれ、底面はレンズ状になって中心部だけが低くなっていた。被熱の部分は所々に確認されたが、いずれも弱く赤変していた。右側の側壁付近からは酸化焰焼成坏、高台付埦が出土している。

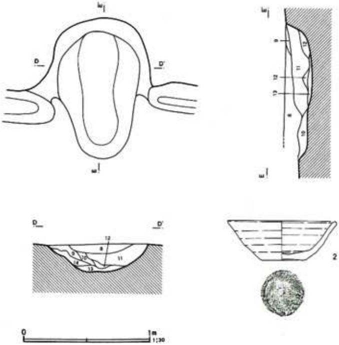
第333図　第97・98号住居跡カマド・出土遺物



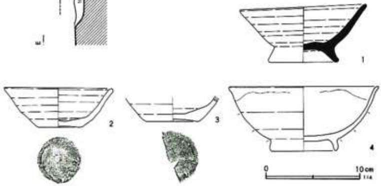
SＪ97カマド
1　暗黄褐色土　ローム粒子、焼土ブロック多量含む。
2　褐色土　焼土ブロック少量含む。
3　黒褐色土　ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。
4　黒褐色土　ロームブロック多量、焼土粒子少量含む。
5　黒褐色土　ローム粒子多量含む。
6　明褐色土　ローム粒子多量、焼土粒子微量灰褐色粒子少量含む。
7　暗黄褐色土　ローム塊。







SＪ98カマド
8　黒褐色土　ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。
9　黒褐色土　ローム粒子多量、焼土粒子、ロームブロック微量含む。
10　黒褐色土　焼土粒子、焼土塊多量含む。
11　黒褐色土　ローム粒子、焼土粒子多量含む。
12　黒褐色土　焼土粒子多量含む。粘性あり。
13　暗黄褐色土　ロームブロック多量含む。
14　暗黄褐色土　黒褐色ブロック少量含む。



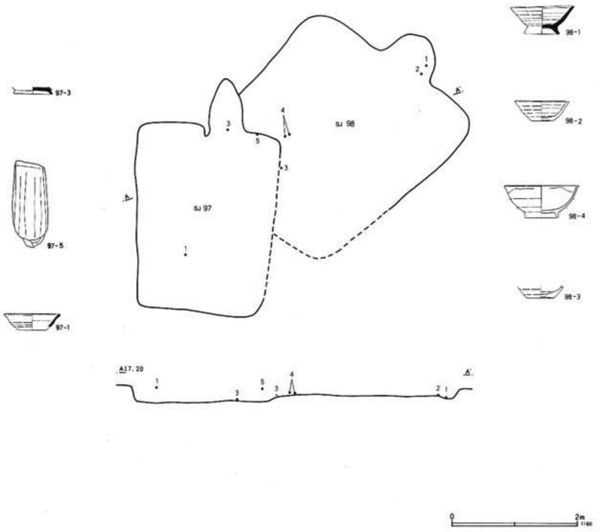
第97号住居跡出土遺物観察表（第333図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.0)			BKL	A	暗青灰色	10	
2	坏			5.8	CK	C	灰色	50	
3	高台付埦			8.4	KL	C	淡灰褐色	90	長頸瓶の可能性あり
4	蓋	(13.0)			CK	A	灰色	10	
5	支脚	長さ(18.5)×幅7.6×厚さ7.9cm							
6	刀子	長さ(2.8)×身幅1.3×棟幅0.3cm、重量4.79ｇ							刃部片

第98号住居跡出土遺物観察表（第333図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	高台付埦	13.6	6.1	7.6	HIKL	A	暗灰褐色	100	
2	坏	11.6	4.2	4.7	GK	A	淡橙褐色	80	酸化鉄付着　漆状の黒色付着物あり　酸化焔焼成
3	坏			(5.6)	HK	C	淡灰褐色	40	酸化焔焼成
4	埦	16.0	7.2	6.8	K	A	淡灰白色	20	灰釉

第334図　第97・98号住居跡遺物分布図



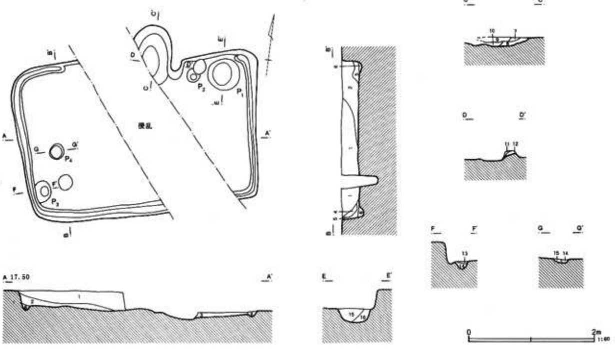
壁溝は西辺周辺をＳＪ97とＳＥ86との重複によって壊されているが、カマドを除いて全周するものと考えられる。また、貯蔵穴やピットなどは検出されなかった。

出土遺物（第333図）

出土遺物には須恵器高台付塊、酸化焔焼成坏、灰釉埦がある。遺物は全体に少なく、カマドや床面から出土している。図示しなかったが、この他に土師器甕の小破片が出土している。１は須恵器高台付埦で、高台が長く「ハ」の字状にひらくものである。また、胎土に多量の雲母を含んでいる。２・３は酸化焔焼成坏で、口径12cm弱、器高４cm弱、５cm弱と小振りである。胎土には、砂粒と黒色粒子が比較的多く含まれるのを特徴としている。ロクロ痕跡は明瞭で、底部は回転糸切りである。４は灰釉埦である。灰釉は漬けかけで、東海産とみられる。

住居跡の年代は、出土遺物からともに10世紀前半頃と考えられる。

第335図　第99号住居跡



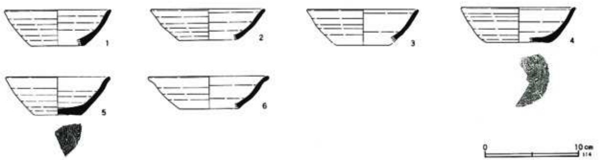
ＳＪ９９

1	黒褐色土	ローム粒子多量、焼土粒子、焼土ブロック ロームブロック、少量含む。
2	黒褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量、焼土粒子 焼土ブロック、少量含む。
3	黒褐色土	ローム粒子、ロームブロック多量含む。
4	暗褐色土	ロームブロック多量含む。
5	暗褐色土	ローム粒子少量含む。
6	暗褐色土	ロームブロック少量含む。
7	明褐色土	ローム粒子、焼土粒子、白色粒子、白色 ブロック、焼土ブロック多量含む。
8	暗褐色土	ローム粒子少量、焼土粒子、黒褐色粒子 ロームブロック多量含む。
9	明褐色土	焼土粒子、白色粒子、焼土ブロック多量含む。
10	暗褐色土	ローム粒子、黒褐色粒子、ロームブロック 多量含む。
11	明褐色土	白色粒子少量、焼土粒子、焼土ブロック多量 含む。
12	暗褐色土	ローム粒子、焼土ブロック少量、焼土粒子 白色粒子多量含む。
13	暗褐色土	ローム粒子、ロームブロック少量含む。
14	暗褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。
15	暗褐色土	ロームブロック多量含む。
16	暗褐色土	ロームブロック少量含む。

第99号住居跡（第335図）

調査区中央北側、Ｗ－10グリッドに位置している。中央部に南北方向に入る撹乱（旧農事試験場の区画整理に伴う段差）は、カマドの一部と床面まで深く入り込んでいた。平面形態は長方形で、規模は長辺3.92m、短辺2.34m、深さ0.24mである。主軸方向はＮ－２°－

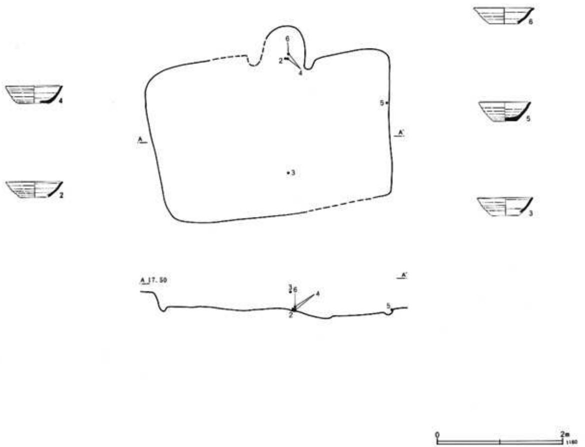
第336図　第99号住居跡出土遺物



第99号住居跡出土遺物観察表（第336図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(11.4)	3.7	(5.6)	BCK	A	淡青灰色	15	
2	坏	(12.4)	3.3	(6.4)	BCK	A	暗青灰色	15	
3	坏	(12.0)			BCK	A	暗青灰色	25	
4	坏	(12.2)	3.7	(6.8)	BCKL	A	青灰色	35	
5	坏	(11.2)	4.0	(5.2)	BCK	A	青灰色	30	
6	坏	(13.0)	(3.4)	(6.4)	CK	C	淡灰褐色	30	

第337図　第99号住居跡遺物分布図



Eである。

覆土は、ロームブロックを多く含む黒褐色土で構成される。床面はやや凹凸があり、撹乱の東側は確認時に床面の殆どがなく、掘形に近い状況であった。

カマドは北辺中央に付設され、壁を約50cm掘り込んで構築されていた。覆土は、白色粘土と焼土がブロック状に混入する暗褐色土で構成されていた。袖は右側の一部が残存していたが、覆土中に混入していた白色粘土が基本になっているとみられ、周辺に多くみられた。燃焼面は、床面から5cm程掘り込まれていたと推定されるが、遺存状態が悪く、凹凸が目立った。

貯蔵穴（P1）は、北東隅で検出された。直径約50cmの円形で、深さは16cmである。ピットはこの他に3基検出されたが、柱穴としてはいずれも浅く、性格不明である。壁溝はカマド、貯蔵穴周辺を除いて全周する。

出土遺物（第336図）

出土遺物は、須恵器坏だけが出土している。遺物の大半は撹乱の西側から出土したものである。

1～6はいずれも小破片で、口縁部の形態が直線的にひらくタイプ（1～4）と小さく外反するタイプの二種類がある。口径は約12cmであるが、形態に関係なく、口径以上に底径には差異がみられる。南比企産が多い。

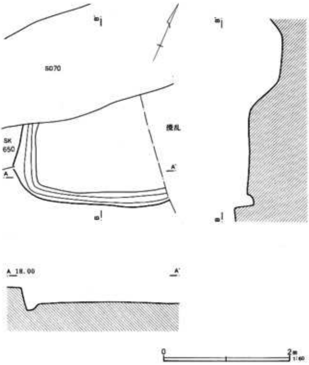
住居跡の年代は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

第100号住居跡（第338図）

調査区の中央南側、Q－12グリッドに位置する。遺構の大半は、後世の溝跡ＳＤ70、撹乱と重複し、原形を留めていない。平面形態は、長方形または不整方形とみられる。規模は残存する長辺が2.32m、同短辺1.76m、深さ0.22mである。

覆土は、ローム粒子を含む暗褐色土で構成される。壁溝は確認された範囲では全周する。カマド、貯蔵穴、ピットなどの付属施設は、重複遺構などによって壊されたとみられ、検出されなかった。また、遺物についても出土しなかった。

第338図　第100号住居跡

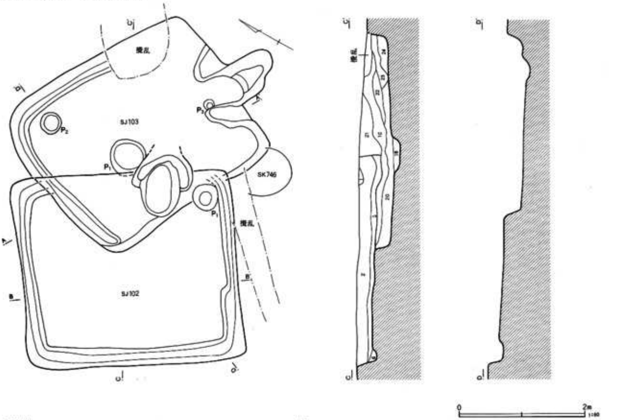


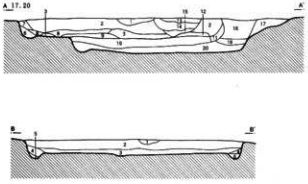
第102・103号住居跡（第339・340図）

調査区の中央北側、Y－10・11グリッドに位置している。住居跡の先後関係は、ＳＪ102がＳＪ103上に掛かって構築されている。また、ＳＪ103がＳＪ102より深く構築されていることや覆土が類似していることで、後出のＳＪ102のカマド周辺が不明瞭であった。

平面形態はともに長方形であるが、ＳＪ102は正方形に近い。規模はＳＪ102が長辺3.43m、短辺3.02m、深さ0.30m、ＳＪ103が長辺3.46m、短辺2.70m、深さ0.54mである。主軸方向はＳＪ102がN－66°－E、

第339図　第102・103号住居跡





SＪ102・103
1　灰褐色土　　ローム粒子微量含む。
2　黒褐色土　　ローム粒子多量、焼土粒子少量含む。
3　黒褐色土　　焼土粒子、ロームブロック少量含む。
4　黒褐色土　　ローム粒子多量、ロームブロック微量含む。
5　黒褐色土　　ローム粒子少量含む。
6　暗黄褐色土　ローム粒子、黒褐色ブロック少量含む。
7　黒褐色土　　ローム粒子多量、ロームブロック微量含む。
8　黒褐色土　　炭化物多量含む。
9　暗黄褐色土　ロームブロック多量含む。
10　黒褐色土　　ローム粒子、ロームブロック多量含む。
11　黒褐色土　　ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
12　黒褐色土　　ローム粒子多量含む。
13　暗灰褐色土　ローム粒子、焼土粒子微量含む。
14　暗灰褐色土　灰褐色ブロック多量、焼土ブロック微量含む。
15　黒褐色土　　ローム粒子少量含む。
16　黒褐色土　　ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。
17　黒褐色土　　焼土粒子、灰色粘土粒子少量含む。
18　暗褐色土　　ロームブロック、焼土粒子少量含む。
19　黒褐色土　　ローム粒子多量、ロームブロック少量含む。
20　暗赤褐色土　焼土粒子多量含む。
21　黒褐色土　　ローム粒子多量、焼土粒子微量含む。
22　黒褐色土　　ローム粒子、ロームブロック、灰褐色粘土ブロック微量、黒色ブロック少量含む。
23　暗黄褐色土　ローム粒子多量含む。
24　黄褐色土　　ロームブロック多量含む。粘性あり。

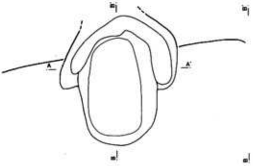
SＪ103がN－64°－Wである。

覆土はともにローム粒子を多く含む黒褐色土で構成されるが、SＪ102はSＪ103にくらべて焼土粒子が多く含まれていた。床面はSＪ102は中央部がやや窪み、SＪ103は平坦であるが、壁溝のない南側に向かってやや傾斜している。

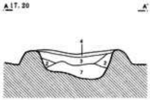
SＪ102のカマドは、北東辺中央やや東寄りに付設されていた。袖は左右とも一部残存していたが、構築材の多くは周辺に流出していた。煙道付近は不明瞭であったが、一部天井が残っていた。天井は白色粘土とロームブロックで構築され、側壁は被熱で赤く変色していた。

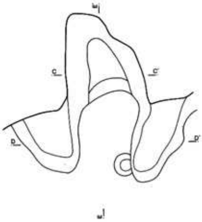
燃焼面付近の覆土は、焼土や白色粘土粒子を含むものの基本的には住居覆土と同様であった。底面は床面

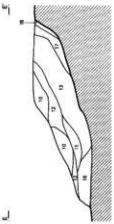
第340図　第102・103号住居跡カマド

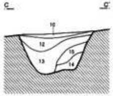


ＳＪ１０２カマド
1　黒褐色土　ローム粒子、ロームブロック多量含む。
2　黒褐色土　ローム粒子、焼土粒子少量、ロームブロック微量含む。
3　暗赤褐色土　焼土粒子多量、黒褐色ブロック少量含む。
4　黒褐色土　焼土粒子、炭化物微量、白色粘土ブロック少量含む。
5　赤褐色土　焼土塊多量含む。
6　黒褐色土　焼土粒子少量含む。
7　黒褐色土　ローム粒子、ロームブロック少量含む。
8　灰褐色土　焼土粒子、炭化粒子微量、褐色ブロック少量、灰白色粘土ブロック多量含む。
9　暗褐色土　ローム粒子多量、焼土粒子微量含む。

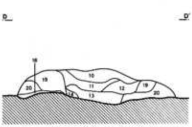




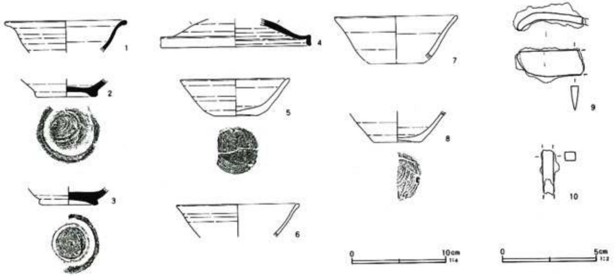




ＳＪ１０３カマド
10　黒褐色土　焼土粒子、灰色粘土粒子多量含む。
11　赤褐色土　焼土粒子多量含む。
12　灰色土　ローム粒子、ロームブロック多量含む。粘性あり。
13　黒褐色土　焼土粒子多量含む。
14　黄褐色土　ローム塊。
15　暗灰褐色土　灰色粘土粒子多量、ロームブロック少量含む。
16　暗褐色土　ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。粘性あり。
17　黒褐色土　焼土粒子微量、ロームブロック多量含む。粘性あり。
18　黄褐色土　ローム粒子少量含む。粘性あり。
19　灰褐色土　焼土粒子少量含む。粘性あり。
20　暗黄褐色土　黒褐色ブロック少量含む。粘性あり。



第341図　第102号住居跡出土遺物



第102号住居跡出土遺物観察表（第341図）

番号	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　　考
1	坏	(13.0)			KL	A	灰色	10	
2	高台付埦			6.6	KL	C	淡青灰色	80	鉄分
3	高台付埦			(6.4)	BKL	C	淡灰褐色	70	
4	蓋	16.0			BCK	A	淡青灰色	20	
5	坏	(11.7)	3.9	(4.6)	E	C	淡橙褐色	60	酸化焔焼成
6	坏	(13.0)			BK	A	淡橙褐色	20	酸化焔焼成
7	埦	(13.0)			EK	A	淡赤褐色	30	酸化焔焼成
8	坏			5.2	BK	C	淡黒褐色	40	器面風化　酸化焔焼成
9	刀子	長さ(3.45)×身幅0.8×棟幅0.35cm、重量10.29ｇ							切先
10	鉄製品	長さ(2.2)×幅0.6×厚さ0.4cm、重量3.66ｇ							角棒状品

から約10cm掘り込まれ、平坦で、被熱によって赤変していた。

貯蔵穴（Ｐ１）は、カマドの右側隅で検出された。直径約40cmの円形で、深さは21cmである。壁溝はＳＪ103と重なる部分が不明瞭であるが､基本的にはカマドを除いて全周するものと考えられる。また、小鍛冶に伴う炉跡や柱穴などは検出されなかった。

ＳＪ103のカマドは、東辺中央に付設され、カマドの主軸は住居に対してやや北方向に傾いている。

ＳＪ103は102より遺構の掘り込みが深いため、攪乱の影響を受けた部分以外は遺存状態が良好であった。

袖周辺は上層が部分的に攪乱の影響を受けていたが､下層は状態も良く、左右の袖も大半が確認できた。袖は灰白色粘土とロームブロックを主体に構築されていた。

燃焼面は中央部が僅かに窪み、煙道にかけて凹凸が目立つ。壁面は煙道付近の崩落が著しいが、袖付近は良く残り、被熱によって赤く変色していた。

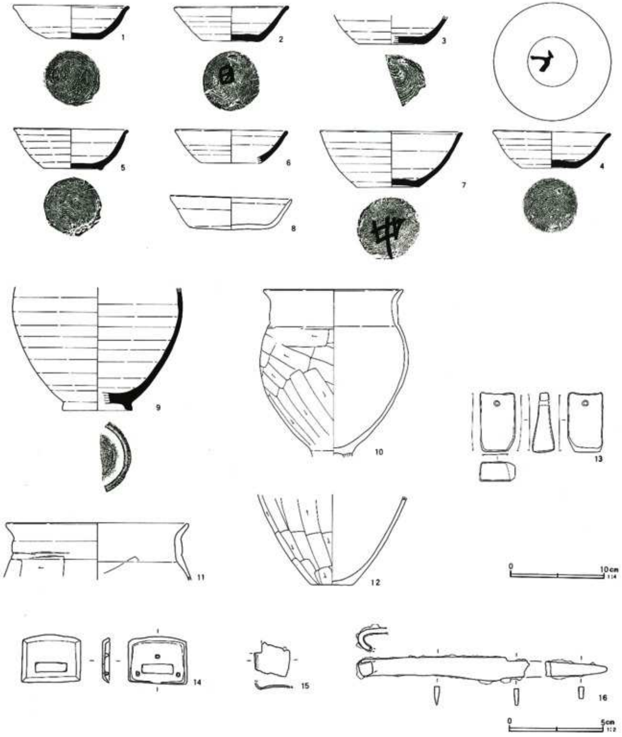
壁溝は北辺と西辺で検出され、南側に向かってやや深くなっていたが、カマド周辺までは及んでいなかった。ピットは３基検出されたが、貯蔵穴はカマド周辺にも確認することはできなかった。

出土遺物（第341・342図）

出土遺物には須恵器坏、高台付埦、蓋、長頸瓶、酸化焔焼成坏、土師器台付甕、甕、巡方、刀子、鎌、釘、砥石がある。ＳＪ102は小破片が多く、床面と覆土を中心に出土している。ＳＪ103は遺構が102より深かったため、比較的遺物も完形に近いものが多く、カマド周辺を中心に出土していた。

ＳＪ102の１は須恵器坏、2・3は高台付埦、４は蓋

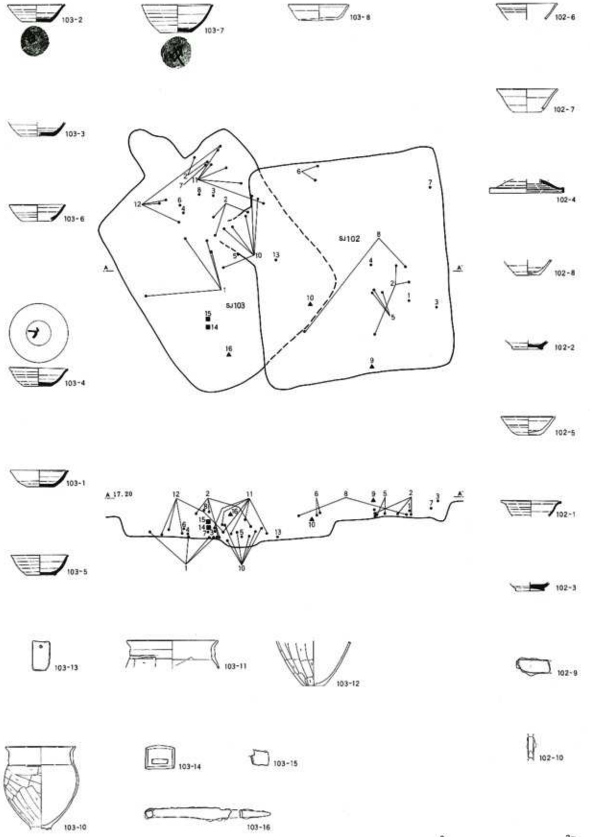
第342図　第103号住居跡出土遺物



の破片である。1は口縁部が大きく外反し、薄手のつくりである。5～8はロクロ使用の酸化焔焼成の坏である。口縁部は直線的にひらき、先端が須恵器のように丸味をもたないものが主体である。底部は回転糸切りで、体部から底部にかけては厚手になっている。9は鉄製鎌の先端部の破片、10は釘の破片である。

ＳＪ103の1～6は須恵器坏で、体部が内湾気味で、口縁部先端が外反するものである。3は底部に「日」4の坏は見込みの部分に「山」、7の須恵器埦は底部に「中」の墨書がある。1～7はいずれも南比企産であ

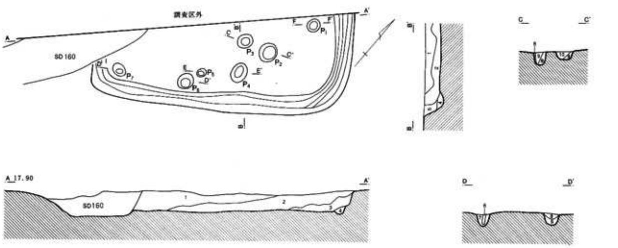
第343図　第102・103号住居跡遺物分布図



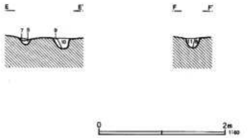
第103号住居跡出土遺物観察表（第342図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.4)	3.5	5.8	BCK	A	青灰色	70	
2	坏	12.2	3.7	6.1	BCK	A	青灰色	70	墨書
3	坏			(7.0)	BC	A	淡紫褐色	30	
4	坏	12.6	3.8	6.0	BCK	A	淡青灰色	100	見込み部分墨書
5	坏	12.2	4.1	6.4	BCK	A	淡灰褐色	100	「×」の窯記号あり
6	坏	(12.0)	3.5	(6.4)	BCK	A	淡青灰色	20	
7	埦	15.2	5.9	6.8	BKL	A	暗灰褐色	95	墨書
8	坏	13.0	3.4	8.8	HK	A	淡赤褐色	100	口縁部に炭化物付着
9	長頸壺			7.5	BCKL	A	暗青灰色	50	
10	台付甕	15.0			KL	A	暗赤褐色	90	内面風化
11	甕	(19.4)			KL	A	橙褐色	50	
12	甕			4.6	HK	A	赤褐色	50	風化著しい
13	提砥石	長径6.2×短径3.8×厚さ2.0cm、重量62.1g							
14	巡方	長さ3.1×幅2.4×厚さ0.1cm、重量5.62g							銅製品
15	鉄具	長さ(1.8)×幅1.7×厚さ0.1cm、重量0.86g							銅製品
16	刀子	長さ(13.2)×身幅1.25×棟幅0.25cm、重量13.54g							

第344図　第105号住居跡



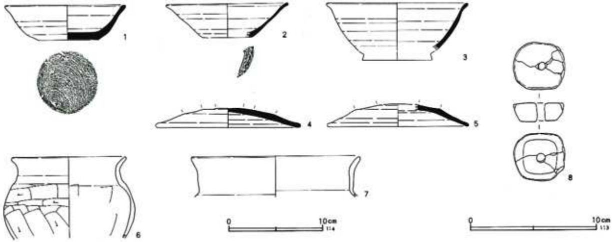
SJ105
1　暗褐色土　ローム粒子、ロームブロック少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒子、ロームブロック多量含む。
3　明褐色土　ローム粒子、ロームブロック少量含む。
4　明褐色土　ローム粒子少量、ロームブロック多量含む。
5　暗黄褐色土　ロームブロック少量含む。
6　暗褐色土　ローム粒子、ロームブロック少量含む。
7　暗褐色土　ローム粒子、ロームブロック多量含む。
8　暗褐色土　ローム粒子少量、焼土粒子、ロームブロック微量含む。
9　暗褐色土　ローム粒子少量含む。
10　暗褐色土　ローム粒子微量、焼土粒子多量含む。
11　明褐色土　ロームブロック多量含む。



る。8は土師器坏で、カマド左袖付近から出土した。口縁部は横方向のナデで、底部はヘラケズリである。9は長頸瓶の胴部下半の破片である。内面は横方向のナデ、外面はヘラケズリの後横方向にナデが施されている。

10は土師器台付甕で、脚部を欠く。11は土師器甕の口縁部、12は胴部から底部にかけての破片である。13は提げ紐の穴のある砥石破片である。14・15は青銅製帯金具で、ともに錆の進行が著しい。14は巡方、15は留め具である。16は刀子で、基部の一部を欠くが同一

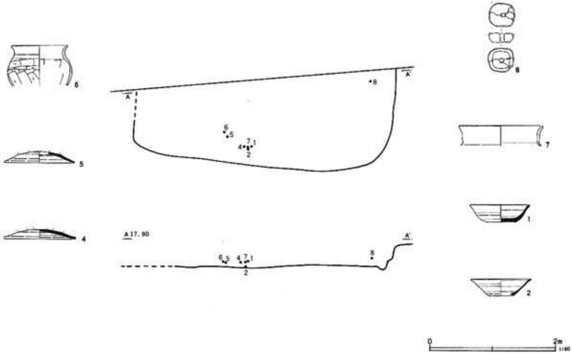
第345図　第105号住居跡出土遺物



第105号住居跡出土遺物観察表（第345図）

番号	器　種	口　径	器　高	底　径	胎　土	焼成	色　調	残存率	備　　　考
1	坏	12.8	3.7	6.4	CKL	A	灰色	80	
2	坏	(13.0)	3.6	(5.4)	CKL	B	淡灰色	20	
3	高台付埦	(15.0)			CKL	B	暗灰色	20	
4	蓋	(15.4)	2.5		CK	A	灰色	20	
5	蓋	(15.0)	2.4		CK	A	灰色	15	
6	台付甕	(12.2)			HK	A	暗赤褐色	30	
7	甕	(18.0)			BK	A	橙褐色	10	
8	紡錘車	広径3.7×狭径4.1×孔径0.65×厚さ1.4cm					灰白色	95	重量30.7ｇ

第346図　第105号住居跡遺物分布図



固体とみられる。切っ先は先端が折れ、約1cm曲がっている。

住居跡の年代は、出土遺物からＳＪ102は９世紀末から10世紀前半頃、ＳＪ103は９世紀後半と考えられる。

第105号住居跡（第344図）

調査区中央、北西側W－７グリッドに位置する。住居跡の約３分の２は調査区外にあたり、カマドなどは検出できなかったが、出土遺物から周囲と同様な平安時代の住居跡と判断した。平面形態は方形または長方形とみられ、規模は東西4.08m、南北は1.52mが確認でき、深さは0.31mである。

住居跡は南西隅を後世の溝跡ＳＤ106と重なるため、不明瞭な箇所があるが、床面はほぼ平坦で、壁溝も全周するものと考えられる。ピットは６基検出されたが、Ｐ２を除くといずれも不規則である。また、床面では小鍛冶に伴う焼土などは検出されなかった。

出土遺物（第345図）

出土遺物には須恵器坏、高台付塊、蓋、土師器台付甕、甕、紡錘車がある。遺物の多くは床面や壁溝付近から出土している。

１・２は須恵器坏で、１はやや厚手であるのに対して、２は破片であるが薄手で底径は小さい。底部はともに回転糸切りである。３は須恵器高台付塊の破片である。２・３は末野産とみられる。４・５は須恵器蓋で、器高が低く、体部は回転ヘラケズリされる。南比企産である。

６は土師器台付甕、７は土師器甕の破片である。６の台付甕は、所謂「コ」の字口縁であるが、やや崩れている。７の甕は「コ」の字口縁であるが、口縁部がやや短くなっている。８は滑石製の紡錘車で、部分的に欠損しているが、全面にわたって磨かれている。

住居跡の年代は、出土遺物から９世紀後半頃と考えられる。

第106号住居跡（第347図）

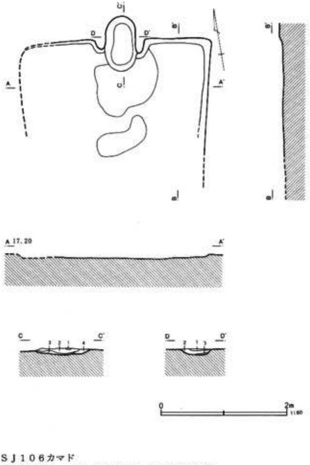
調査区の中央、やや北西寄りのW－11グリッドに位置している。確認時において既に床面が露出しており、カマドを含む北東の辺が３m余りにわたって検出されたにすぎない。

平面形態は北方向に長い小規模な長方形とみられるが、撹乱などにより不鮮明である。推定される規模は長辺約３m、短辺約2.40m、深さ約５cmである。主軸方向はＮ－７°－Ｅである。

カマドは北辺中央に１基付設されていた。既に袖も殆どなく、燃焼面の掘形だけが検出された。燃焼面の底面はレンズ状に窪み、焼土も僅かに確認できたが、掘形まで及んだ被熱の痕跡は確認できなかった。

床面は平坦であるが、ところどころに凹凸がみられ

第347図　第106号住居跡



ＳＪ１０６カマド
1　暗褐色土　ローム粒子少量、炭化物微量含む。
2　暗褐色土　ローム粒子、焼土粒子、焼土ブロック多量含む。
3　黄褐色土　ロームブロック多量、白色粒子少量含む。粘性あり。
4　暗黄褐色土　白色粒子微量、ローム粒子少量含む。粘性あり。